

平成30年度  
**事業報告書**

学校法人 大阪青山学園

## 目 次

I	法人の概要	1
i	所在地	1
ii	設置する学校	1
iii	大学、短期大学及び幼稚園の入学定員、収容定員及び在籍者数	1
iv	役員・教職員数	2
II	事業の概要	2
i	はじめに	2
ii	法人事務局	2
1	理事会・評議員会・監事監査	2
2	将来構想委員会	3
3	大学改革委員会	3
4	総務部	3
iii	大阪青山大学 健康科学部	4
1	健康栄養学科	4
2	子ども教育学科	8
3	看護学科	10
iv	大阪青山大学短期大学部	13
1	調理製菓学科	13
v	附置・付属機関	21
1	大阪青山歴史文学博物館	21
2	図書館（図書室・メディアセンター）	24
3	体育館	26
4	共通教育センター	30
5	情報教育センター	30
6	学習支援室	35
vi	委員会	40
1	大学 自己点検評価委員会	40
2	FD推進委員会	43
3	SD推進委員会	44
vii	事務部門等	46
	総務部	46
1		
2	教務部	47
3	教職支援室	48
4	学生支援センター	51
5	進路支援センター	59
6	入試部	65
viii	青山幼稚園	67

# 平成30年度事業報告書

(平成31年3月現在)

## I 法人の概要

### i 所在地

- ◎学校法人大阪青山学園  
大阪府箕面市新稲2丁目11番1号
- ◎大阪青山大学  
大阪府箕面市新稲2丁目11番1号
- ◎大阪青山大学短期大学部  
大阪府箕面市新稲2丁目11番1号
- ◎青山幼稚園  
大阪府吹田市青山台4丁目5番

### ii 設置する学校

#### 1 大阪青山大学

- 健康科学部 健康栄養学科
- 子ども教育学科
- 看護学科 (平成27年4月開設)

#### 2 大阪青山大学短期大学部

- 調理製菓学科
  - 調理コース
  - 製菓コース

#### 3 青山幼稚園

### iii 大学、短期大学及び幼稚園の入学定員、収容定員及び在籍者数

(在籍者数：平成30年5月1日現在)

区分		入学定員	収容定員	在籍者数	備考
大学	健康科学部健康栄養学科	80	320	283	平成17年4月設置
	健康科学部子ども教育学科	80	340	334	平成20年4月設置(平成25年度名称変更)
	健康科学部看護学科	80	320	338	平成27年4月設置
	計	240	980	955	
短期大学	調理製菓学科	60	120	118	
	計	60	120	118	
合計		300	1,100	1,073	
幼稚園			590	431	※認可定員

#### iv 役員・教職員数

##### 1 役員数（平成30年5月1日現在）

- ・理事 8名
- ・監事 2名
- ・評議員 17名

##### 2 教職員数（平成30年5月1日現在）

	教授	准教授	専任講師	助教	助手	教諭	事務職員
法人	—	—	—	—	—	—	1
大学	32	13	12	9	2	—	37
短期大学	4	4	1	0	0	—	3
幼稚園	—	—	—	—	—	21	1

※大学の教授数には学長・副学長を、幼稚園の教諭数には園長を含む。

## II 事業の概要

### i はじめに

私学を取り巻く環境は、少子化、学生・保護者のニーズの多様化、経済不況など社会環境の急激な変化とともに厳しさを増している。特に「2018年問題」は、近年横ばいであった18歳年齢人口が2018(平成30)年から大きく減少していくこととなり、益々激しさが増していく。また、類似学部・学科を持つ近隣大学との学生の獲得競争や補助金をはじめとする競争的資金の獲得競争は大学の二極化を加速させている。

このような環境の中で、本学は安定した経営基盤と確固たる教育の質保証により「入学したい大学」として有り続ける必要がある。そのため、平成27年度に設置した健康科学部看護学科の平成30年度の完成を踏まえ、第2次中期計画（平成28年度～平成32年度）の基本構想を継続し推進した。なお、第2次中期計画については、短期大学部の2020年度入試からの学生募集を停止するなど一部修正を行った。また、経営基盤の安定と改善のために策定した経営改善計画（平成28年度～平成32年度）を継続し推進するとともに、中期計画の修正に伴い見直しを行った。本年度の予算編成方針の柱である、平成28年度から継続する「財務体質の改善と強化」については、この方針により、事業を推進した。

## ii 法人事務局

### 1 理事会・評議員会

理事会は、本学園の経営が急激な社会環境の変化に対応できるよう、経営機能と管理運営機能の充実を図るため毎月一回の開催を基本とし、常任理事を通しての学園、設置校の情報を早期に着実に求め、活発な理事会運営に努めた。本年度は、理事会と常任理事会等の役割に関し、理事会からの委任事項を明確化するために整備された関係規程に基づき、機動的な理事会運営を行った。

また、平成 28 年度に策定した経営改善計画（平成 28 年度～平成 32 年度）を円滑に計画通りに実行するために設置された経営改善実行プロジェクトについては、理事会がその業務を引き続き統括した。

評議員会は、理事長が理事会の審議に先立って意見を聴取し、また理事会の決定を報告して意見を求めることにより、評議員会の意見を経営に反映した。

### 2 将来構想委員会

第 2 次中期計画（平成 28 年度～平成 32 年度）の基本構想を策定、全教職員に周知を図った。特に平成 27 年度に設置した看護学科の平成 30 年度の完成による学園状況を見据え、具体的な施策と取組を大学改革委員会に委ねることとした。

### 3 大学改革委員会

将来構想委員会により策定された第 2 次中期計画（平成 28 年度～平成 32 年度）について継続して具体策を策定するなど実施推進の取組みを継続した。

平成 27 年度に委員会内に設置した「教育の質的転換プロジェクト」、「地域発展プロジェクト」、「財務改善プロジェクト」は継続し、それぞれの課題解決に向けて取組みを行った。なお、「教育の質的転換プロジェクト」については、今後、「自己点検評価委員会」にその機能を移し、同委員会において教育の質保証を中心に検討を行うこととした。

また、外部からの意見聴取を一層推進するため、近隣の自治体である箕面市、池田市、川西市に大学運営アドバイザーの委嘱を行い、平成 31 年 3 月に大学運営アドバイザーとの意見交換会を行った。更に、高等学校からの意見を反映するため、近隣の高等学校 18 校からの教員の参加を得て、「高大情報交換会」を昨年に引き続き本学で実施した。

### 4 総務部

#### (1) 組織・制度の適正化

大学事務局等の組織を見直し、教務部の教職支援課を廃止し、教職支援室を創設した。

各部門・学科の収支構造の改善を伴う学園の財務構造の適正化を実現するため、厳正な予算管理を行うとともに、予算制度の向上化に努めた。

## (2) 校舎・設備等の整備

- ・平成 29 年度から継続する校舎トイレの改修工事を実施し、学園内のトイレ工事は完了した。
- ・青山幼稚園の南園舎等の改築整備を実施した。
- ・本館 1 階の学生談話室のテーブル、椅子、ソファなどを更新し、快適な環境の整備を図った。
- ・1 号館の屋上防水工事など、校舎、設備等の老朽化に伴う改修等を適切に行い教育研究環境の整備に努めた。

## (3) 外部資金の獲得の活性化

科学研究費補助金や研究助成金など競争的資金等の外部資金の獲得支援を行い 17 件（代表 6 件、分担 11 件）、総額 28,490 千円の科学研究費補助金を獲得した。

また、企業から 6 件、総額 2,847 千円の受配者指定寄付金を得た。

なお、平成 31 年 2 月 15 日（金）に、科研費を中心に制度の概要や申請書作成などの説明を行い、外部資金獲得に向けた SD 研修会を実施した。

## (4) 寄附金募集活動の活性化

「教育振興資金」について、HP を活用した広報活動等を積極的に行うとともに税額控除制度の適用について周知を図り、同窓会員、大学関係者及び企業等から広く募金を求めた。特に平成 29 年の学園創立 50 周年を契機として、寄附金の増収に努め、教育振興資金は、69 件、総額 3,657 千円であった。

### iii 大阪青山大学

#### ◎健康科学部

##### 1 健康栄養学科

##### (1) 管理栄養士国家試験対策の強化

第 33 回国家試験合格率は 100%（11 期生 26 名受験）であった。既卒者の合格率および受験者数は 6.5%（31 名受験）であった。

##### ① 在学生への支援

管理栄養士国家試験の受験者数および合格率の向上を目指し、学科教職員全員できめ細やかな支援を行った。4 年次に国家試験対策における学生カルテを作成し、個々人の学修状況の把握に努めた。国家試験対策講座として教員による講義や過去問題集の配布、自習時間における個別対応を実施した。

##### ② 卒業生への支援（卒後支援）

管理栄養士国家試験対策に関する情報提供をはじめ、教材の郵送、対策講座や模擬試験への参加勧奨、管理栄養士国家試験受験に係る書類送付等の支援を行った。

##### ③ 国試対策室の重点化

学科教職員で組織し、国試対策の強化を図った。外部講師を招き、試験対策の技術面に関して指導を行った。模擬試験は月1回以上実施し、学生の学修状況の把握を行った。

#### (2)「キャリアデザイン」科目の開講

1年次から「管理栄養士」としてのキャリアデザインを描き、目的・目標を明確化させるために「キャリアデザイン」科目の開講を検討した。必修科目である「管理栄養士入門」と連携させる方向で検討したが、大学生としての初歩的なキャリア教育が必要とされた。

#### (3)就職・進学支援

進路支援センターとミーティングを実施し、学生の就職活動の状況や内定状況等を把握し、学生への支援体制を整えた。また就職活動を行っていない学生に事情を聴き、就職希望でありながら行動していない学生については進路支援センターへの相談を促した。

また、コース制が平成31年度入学生から導入され、学科の特色を可視化すると共に管理栄養士の業務を分かりやすく伝えることとした。

#### (4)入学前教育の実施

化学・生物の通信課題を実施した。また、全学共通の入学前教育課題である日本語の通信課題やe-ラーニング(アオドリ)についても実施した。

#### (5)学修支援の強化

基礎学力の底上げとして、初年次教育『化学・生物』の補講を行った。平成30年4月5日(木)に基礎学力テスト、非常勤講師による講義を16回、7月30日(月)に試験を実施した。

また、学習支援室と連携して学修支援を強化し、基礎学力の向上を図るとともに学力不足による退学を防止した。

#### (6)自習室の増設および使用時間の延長

大学での学生相互の自主学習や情報交換は、学生の学習に対する意識向上に関わっている。助教の研究室の移動に伴い、室内に自習スペースを設け、本館126号室を健康栄養学科の研修室とした。

#### (7)臨地実習の実施

臨地実習は、学内で修得する知識・技術を栄養管理の実践の場で実習・演習し、理論と実践を結びつけて理解することを狙いとして行われる必修科目である。3年次前期に事前指導を実施した。給食経営管理分野は平成30年8月～9月に主に大阪府内の事業所の給食施設において、公衆栄養分野は平成30年8月～9月に大阪府内の保健所・保健センターにおいて、臨床栄養分野は平成31年2月～3月に大阪府内の病院を

中心に実施した。実習後にそれぞれ報告会を行った。

#### (8) 保護者懇談会の実施

平成30年5月26日(土)に本学において保護者会および個人面談を実施した。学科懇談会は26家族34名の参加があり、個人面談は13家族19名について実施した。

#### (9) 地域連携の取組み

##### ① 卒業研究等による連携

近隣の幼稚園・小学校・保健所・保健センター・医療機関・福祉施設などと連携した食育活動について現地に赴き食育媒体や調理実習を活用し実施した。

##### ② 箕面市立病院医療・看護フェア

平成30年5月10日(木)、11日(金)に開催された医療・看護フェアに4年次生が参加し、SATシステムによる食生活診断を実施した。

##### ③ ガンバ大阪連携プロジェクト

平成30年度の事業は全学で取り組まれる中、健康栄養学科は『食べるあったかスープ』の調理販売とクイズイベントを担当した。6月よりミーティング及び試作を繰り返し、平成30年11月24日(土)11時より、150食販売した。平成30年12月10日(月)に反省会を実施し、次の取組みに向けて発表した。

##### ④ 葉酸たまご甲子園

「葉酸たまご甲子園」は、栄養素「葉酸」の役割を多くの女性に広めるために、栄養学を学ぶ学生を対象とした料理コンテストであり、「葉酸と母子の健康を考える会」が毎年開催している。今年度は、平成30年8月29日(水)に京都調理専門学校で実施され、健康栄養学科2年次生3名が出場し、「準優勝」した。

#### (10) 実験・実習環境の整備

##### ① 実習室の整備

(特殊栄養実習室・給食経営管理実習室・308調理実習室・臨床栄養室)

実習室の整備として、調理器具や食器(フードプロセッサー、スケール、寿司桶、サーバー)、乾燥機、瞬間湯沸かし器、体組成計、血圧計、貸出用エプロンを購入した。調理室の戸棚、ガスブレイジングパン、ブラストチラー、殺菌庫、コンビオープンを修繕した。

##### ② 実験室の整備(理化学実験室・学生実験室・生物科学実験室)

実験室の整備として、高速液体クロマトグラフィー用ワークステーション、電子レンジ、恒温槽を購入した。人体模型、骨格模型、実験室の戸棚を修繕した。また、試薬管理を徹底するため、試薬管理簿を作り、管理者不明試薬について廃棄処分を行った。

#### (11) 学外研修の実施

##### ① 3年次生(12期生)の1泊研修の実施

下記のとおり実施した。



日程：平成30年10月10日（水）～11日（木）

対象：3年次生 74名

引率：教員3名

行先：株式会社ヤクルト本社三木工場、大塚製薬株式会社能力開発センター  
大塚食品株式会社、大塚国際美術館、渦の道、姫路城、酒蔵灘菊

宿泊：ルネッサンスリゾートナルト

②3年次生（12期生）の洋食テーブルマナーの実施

下記のとおり実施した。

日程：平成30年10月10日（水）

対象：3年次生 74名

引率：教員3名

行先：ルネッサンスリゾートナルト

③4年次生（11期生）の和食テーブルマナーの実施

下記のとおり実施した。

日程：平成30年10月10日（水）

対象：4年次生 72名

引率：教員3名

行先：京都伏見 清和荘

(12)資格支援

①栄養士免許申請に関する支援

栄養士免許申請に関する支援を行った。4年次生69名が取得した。

②栄養教諭課程履修に関する支援

4年次生10名、3年次生7名について、栄養教諭免許取得に係る支援を行った。

③フードスペシャリスト認定試験の実施および資格取得支援

平成30年12月17日（日）に4年次生1名、3年次生20名が受験し、それぞれ1名および16名が合格した。4年次生8名が資格申請を行った。

④フードサイエンティスト資格取得支援

平成30年10月12日（金）に資格取得に係る講演『食品表示の現状について』を実施した。4年次生2名が資格申請を行った。

⑤健康運動実践指導者資格取得支援

4年次生3名が受験し、全員合格した。全員が資格申請を行った。また、健康運動実践指導者養成校申請の更新手続きを行った。

⑥全国栄養士養成施設協会栄養士実力認定試験の実施

平成30年12月8日（日）に3年次生26名が受験した。

(13)学科事務室の業務の精査および整理

①学生対応

学生が抱えている国試対策や実習・実験、学生生活などの疑問点、悩み等について、担任や担当教員と連携し、対応した。

## ②業務改善

教員・学生が利用しやすいように環境づくりを行った。また、授業等で使用する教科書や国試対策の参考資料を増やした。

## 2 子ども教育学科

### (1) 学科の教育理念・目標の明確化

本年度は、3コースを設置した2年目にあたることから、それぞれのコースの理念・内容などに基づき、開講年次を中心にカリキュラムを検討・編成した。また、小学校・幼稚園教諭の養成のための再課程認定申請及び、保育士課程再課程申請にかかわって、教務部との連携の下に、新設科目の担当者の配置ならびにコアカリキュラム対応表やシラバス等の整備を行った。

### (2) 初年次教育の充実

初年次教育・学生支援にはこれまでも力を入れてきたが、今年度は「学修基礎演習」「キャリアデザイン」の授業担当者の再編を行い、授業内容の見直しを図った。また、例年、「子どもの健康と生活」では子どもに関わる専門家を招聘しているが、子どもを多面的に理解するために、講師陣の専門領域の幅を広げた。さらに、コース選択の際、重要となる1年次後期開講「健康子ども学基礎ゼミナール」の中で、学校教育・保育・子どもの福祉現場での基礎理論の学びを元に、職務理解を深めることが可能となった。これによって、より早期から、学生自身による目標が明確化されるようになった。

### (3) 2年次生以上の教育・支援の充実

3コース制に基づいた2年時以降の授業が今年度より実施され、学生自身の具体的な進路設定を元に、特別時間等を活用しながら、担任による学修・進路支援を行った。また、学生の進路支援のために特別時間が有効活用できるよう、各期ごとに特別時間のスケジュール調整を行った。

進路支援に関しては、今年度より、保育・教職支援室が設置され、公立採用試験対策講座や採用時の面接指導等の支援体制の強化が図られた。そのため、今年度は、保育・教職等の専門職に就く学生については、例年に比して、早期に就職先が内定した。一般企業を希望する学生については、進路支援センターを介しての進路支援となるが、教職支援課・子ども教育学科との相対的独自性を踏まえた相互連携を図り、従来通り月一回の定例会議を設けて学生の就職活動を支援した。

さらに、学生の教育・生活上の支援を充実させるため、個別対応を要する学生について学科内で検討し、今後の支援体制強化のための方向性について協議した。これについては、具体的な支援体制を確立させるため、今年度も引き続き検討していく。

学修支援については、教員による知的感動の伴う「わかりやすい」授業の展開に努めるとともに、特別時間をも活用して学生の学修支援を行った。ただし、その効果の検証に関しては十分とはいえ、今後、体系的に取り組むための「特別時間のあり方」への検討を要する。

また、今年度の4年次生の卒業研究については、例年になく履修者が多く、充実し

たものとなった。但し、次年度、より一層充実させていくためにも、3年次生の「健康子ども学専門ゼミナール」から卒業研究への接続のあり方についての検討課題は残る。また、上級生による下級生（とくに1年次生）の指導や両者の連携を強めるため、ピアリーダー制の充実を図った。

(4) 保育実習・教育実習の指導体制の充実

保育実習・教育実習は養成プログラムのなかで重要な位置を占めるため、実習の充実を図り、これまでと同様に、全教員による実習指導体制を強化した。

(5) 保育実習・教育実習の参加要件の検討

学生の実習参加の基準としてGPAを導入しているが、それをより厳格に適用した。

(6) 実験科目や実技関連科目などの基盤整備

短期大学幼児教育・保育科の閉鎖後、未整備となっていた音楽系教室の整備の第一歩として、第1ML（1号館5階）及び第2ML（本館4階）と共に、器楽系レッスン教室の見直しに着手した。しかしながら、各保育内容・初等科教育法における実践力（模擬保育・授業）を身につけるための保育・教職演習室（仮称）については未だ検討に入る事は出来ていない。

(7) 学生の自習環境の整備

平成26年度から学科学生が日常的に利用できることとした4号館6階の研修室の利用が採用試験のための自主学習室として定着してきた。しかしながら、これらは、試験を目前に控えた4年次生中心の自習室となっており、早期から試験対策に望む他学年のための自習環境の整備も必要である。さらに、2次試験以降に求められる、面接や模擬保育・授業のための自習環境が不十分であるため、学科内で検討しながらさらなる自習環境の整備に努める。

(8) 公開講座への主体的関与と新たな開講

大学全体で開講する公開講座に対して、子ども教育学科の専門性を発揮した関与を積極的にすすめることはできなかった。

(9) 子育て支援室のさらなる充実と地域への開放

平成23年度末より子育て支援室を開放し、近隣の親子が利用できる体制としてきたが、現在、利用者も増え、多様な親子が利用している。特に、幼稚園未就児の利用頻度が高く、3歳未満児の絵本・玩具等を整備する必要性が出てきた。地域貢献の一端として、箕面市特有の子育て世代のニーズを理解・検討をすすめ、尚且つ、本学教員・学生の研究・学修に活かす事が出来た。

(10) 中途退学者の抑制とA0入試・特別推薦入試

昨年度、示した中途退学者の動向の分析結果を元に、中途退学抑制に向けて、以下の点について取り組んだ。

- ①担任を中心とした、進路に迷いが生じている学生への支援
- ②単位取得状況及び学生生活が芳しくない学生に対する早期面談の実施
- ③保護者への連絡・面談
- ④資格取得が困難な学生への早期からの進路支援

A0 入試・特別推薦入試については、志望動機や将来展望が重要なため、本学科の学びの特色と将来展望の繋がりについて、オープンキャンパスを介して説明した。

#### (11) 定員充足と入学試験のあり方

中途退学者抑制の前提を踏まえ、不本意入学者や無目的入学者の発生を抑えるために、オープンキャンパスを通じ、以下の点に取り組んだ。

- ①アドミッションポリシーへの理解
- ②少人数制による丁寧な教育と支援体制
- ③学科の学生スタッフによる大学生活及び、将来展望への見通し

#### (12) 広報戦略のあり方

子ども教育学科への入学意欲が高まるような広報戦略を入試部と連携して、大学案内の内容などで若干の工夫を試みた。また、オープンキャンパスでの学生スタッフの育成に努め、学生による大学生活及び将来展望への見通しを高校生に伝え、志望動機が高まるよう努めた。

#### (13) 保護者との連携の強化

保護者懇談会を開催し、保護者の意見を集約して学科の学生教育に生かすとともに、保護者と教員が連携して三者面談などを行うことで学生の学修上・生活上の問題に適切に対処した。また、学習・生活状況に課題があると思われる学生については、担任を介し、早期に保護者面談を実施するよう努めた。

### 3 看護学科

#### (1) 看護師・保健師国家試験対策プログラム作成と支援

##### ①看護師国家試験対策講座、模擬試験

当初の企画に基づき、平成 30 年度において下記のとおり国家試験対策プログラムを実施し、学生支援を行った。また、平成 29 年度より導入した学生の国家試験対策委員からも意見を募り、今後ともより充実した支援内容を提供することとする。

- 1 年次生：国試対策講座（1 コマ）を実施。
- 2 年次生：国試対策講座（3 コマ）と学内模擬試験（1 回）を実施。
- 3 年次生：国試対策講座（9 コマ）と模擬試験（1 回）を実施。
- 4 年次生：国試対策講座（66 コマ）と模擬試験（7 回）を実施。

上記のとおり学年進行により、一層充実した内容とするとともに、学生の国試受験へのモチベーション向上に努めた。

#### ②保健師国家試験対策講座、模擬試験

保健師については、平成 30 年度に国家試験対策を以下の通り、実施した。

4 年次生：国試対策講座（24 コマ：内、専任教員によるのは 16 コマ）と模擬試験（9 回）実施

③高校で生物を学んでいない学生が少なからずいることから、平成 30 年度にプレイスメントテスト結果に基づいて下位 40 名の学生に対し、空き時間の 8 コマを確保し、外部講師による講義を実施した。実施後の学生のアンケートによれば、「生物」や「解剖生理」の授業に取り組みやすくなったとしている。今後これらの成績との相関を検証していく必要があると考える。

#### (2)就職支援体制の設計と支援

平成 30 年度の就職支援活動として、進路支援センターと連携を取りながら、1 年次生から 4 年次生を対象に合計 12 回実施した。

1 年次生には、「キャリアデザインとは」、「実習前マナー講座」を、2 年次生には「実習前講座」を行い、学生からは、概ね好評を得た。3 年次生には就職に直接つながる内容として、「文章を書いてみよう」「自己分析・価値観を知る」「実習病院説明会」「集団面接・履歴書の書き方・自己 PR・志望動機の書き方」を実施した。学生の出席率が低かった。4 年次生には 4 月に「面接マナー」「エントリーシートの書き方」を実施したが、就職試験が 3 月末から開始している施設もあることから学生からもう少し早くに実施して欲しいとの声が多かった。

1 期生卒業後のフォローとして「ホームカミングディ」を計画している。

#### (3)保護者懇談会の実施

例年のとおり保護者懇談会実施時に希望する保護者へ個別面談を実施した。学生個々人の成績を基として、個別・具体的な指導を行うとともに、個別に抱える問題につき、相談に応じた。

#### (4)臨地実習の実施

3 年後期の各論領域実習については、大きな事故等もなく無事終了することができた。

なお、学生の実習に取り組む姿勢や受入施設側の問題も少なからずあったが、大きな問題に発展することもなく、実習を終了した。しかし、昨年度と比較して今年度は、実習単位未修得者が多かった。今後実習に向けて、実習前の学習およびマナーの強化に努めたい。

#### (5)臨地実習施設との協力体制の構築

4 年間の看護教育に占める臨地実習の重要性は高いことから、平成 29 年度同様今年度も施設側と「臨地実習合同連絡会」（平成 30 年 5 月 11 日）を開催し、昨年度の実習

での学びをはじめ、施設側の各種要求についても聴取した。

今後は、実習施設側の負担を考慮し、領域毎に施設との交流・調整を図っていく方針となった。

#### (6) チューター制度による学生支援

学生支援については、学業への不安や実習先での躓き、国家試験受験へのモチベーション維持など、チューターによるきめ細かな指導が行なえていると考える。

看護学科では、原則1年次から3年次までチューターは変わることなく、一貫して指導が行えることから、教員と学生の絆はより強くなり、保護者を交えた懇談など、より深い支援・指導が行なえている。4年次はゼミを通して学生とのかかわりがより濃厚となり、密着した国試対策や就職指導が行えたと考える。

#### (7) 解剖見学実習

前年度に引き続き、解剖見学を実施（平成30年11月8日）した。教科書のみ知識ではなく、解剖見学により学生にとってより深い学びになったと考える。

#### (8) 日本の文化、芸術、伝統芸能に対する理解を深める教育

前年度に引き続き、文楽（平成31年1月20日実施）と歌舞伎（平成31年1月8日実施）の鑑賞を行った。学外での芸術鑑賞を伴う科目であることから、受講者数に制限を設けての開講となっているが、受講希望者は多く、学生のニーズに合った科目となっている。また、本学の教育目標である「日本の文化と伝統を理解し感性と知性を磨く人」との関連性も高く、目指すべき教育を実践しているものと考えられる。

#### (9) 学術活動

##### ① 学術講演会

平成30年度において、下記のとおり学術講演会を開催した。

テーマ：ア:患者と家族を支える看護、イ:家族と一緒に過ごした時間

開催日時：平成30年7月13日

講師：ア:協立訪問看護ステーション 中嶋百合子 先生

イ:涌嶋三恵 先生

##### ② 大阪青山大学看護学ジャーナルの発刊

大阪青山大学看護学ジャーナル創刊号を3月31日付で発刊した。掲載論文数は、8件であった。

#### (10) 学生募集への取組み

開設準備の段階からガイダンスや模擬講義等、高校生への募集活動に積極的に取り組むとともに、看護学科への志望者数・受験数の増加を見込んでオープンキャンパスの内容を吟味するなど検討している。しかし、大阪府下で新たに2大学が新設されることから、今後、志願者数・受験者数は減少することが予想される。

#### (11) 地域連携活動の取組み

大学の地域連携活動に協力し、看護学科教員も下記のとおり講演会講師を務めた。

○テーマ : フクロウのペリット解剖

開催日時 : 平成 30 年 8 月 21 日 10 : 30 ~ 12 : 00

講師 : 佐藤 寿哲 先生

○テーマ : 笑いと健康～みんなで笑って笑って元気になりましょう

開催日時 : 平成 30 年 10 月 28 日 10 : 30 ~ 11 : 30

講師 : 古谷 昭雄 先生

○テーマ : 共に伸ばそう健康寿命～これからの介護予防と健康づくり～

開催日時 : 平成 30 年 8 月 22 日 10 : 00 ~ 11 : 30

講師 : 工藤 節美 先生

○テーマ : 認知症予防運動

開催日時 : 平成 30 年 12 月 4 日 10 : 00 ~ 12 : 00

講師 : 西地 令子 先生

#### (12) 他大学との交流

日本看護系協議会、日本私立看護系大学協会を通して会員校との親睦を図ることができた。日本における看護教育の潮流、今後の課題などを的確に把握し、今後とも学生教育への還元に努める。

### iv 大阪青山大学短期大学部

#### 1 調理製菓学科

##### (1) 教育理念・目標の明確化

学科カリキュラム理念として「調理・製菓の技と感性を磨き、即戦力となる「食」のスペシャリストを育てるカリキュラム」を掲げ、基礎的な知識と技術を徹底的に習得させると共に即戦力となる能力を身に付ける為の実践的な授業を展開した。

##### (2) 学外研修・集中講義関係

###### ① 1 年次西洋料理テーブルマナー研修

食の専門職を目指す人材として会食時に身につけておくべき、国際的な礼儀や基礎知識を一流ホテルでのテーブルマナー講習の実践を通じて養う研修を実施。

対 象 : 調理製菓学科 1 年次生

実施日 : 9 月 10 日 (月)

場 所 : 帝国ホテル大阪

###### ② 国内 1 泊研修旅行

地域の風土や食文化に触れ体感することにより、知識と感性を身につけ、研修を通じての学科内でのコミュニケーション能力とチームワークを養う為、研修を実施。

対 象 : 調理製菓学科 2 年次生

実施日：6月1日（金）～6月2日（土）

場 所：淡路島

③ヨーロッパ研修旅行（食文化演習Ⅲ）（海外食文化演習）の実施（希望者）

ヨーロッパ圏での食文化や芸術を通し、現地の歴史、風土、芸術に触れその知識を得ることとともにグローバルな視点で食を観察し具現化するスキルを身につける事を目的に実施。

対 象：大阪青山大学短期大学部 調理製菓学科 希望者

大阪青山大学健康科学部 健康栄養学科 希望者

実施期間：2月12日～2月21日 10日間

参加学生：38名 添乗教員2名

場 所：スペイン・フランス

④学外実習・インターンシップの実施

就職活動を視野に入れた学外実習・インターンシップとする。本人の希望にそった料理・菓子のジャンルへの実習先を選択。実習により、自分の進むべき道を決定するための大きな指標となり、社会での厳しさを実感し就職時の自分の立ち位置の確認、学生生活の中で今、自分がすべきことを認識することを目的とし実施。

対 象：調理製菓学科 1年次生

実施期間：3月7日～3月19日（実質12日間）（製菓コース）

3月11日～3月19日（実質8日間）（調理コース）

(3)資格関係

①フードスペシャリスト認定試験

食に関する幅広い知識を身につけ、食に関する他分野での活躍にいかすために資格取得を目指す。合格率アップのための事前対策の実施。

合格率アップを目指したが依然として合格率は低く資格を取る意識は低い。

来年度のフードスペシャリストは受験のみ選択制をとり、合格率を上げる。

対 象：調理製菓学科 2年次生

実施日：12月16日（日）

(4)カリキュラム

①「建学の精神」「ディプロマポリシー」「学科の教育理念・目標」を達成することを目的とし有意性のあるカリキュラムを編成した。

②日本の伝統と文化の科目を重視（茶道、華道、書道、陶芸）

専門職として習得し役に立つ科目、茶道、華道、書道、陶芸を重視しており、資格や将来に向けて役立つ授業として認識するよう意識付けを行う。

③基礎英語・話し方（プレゼンテーション）

就職や就職後にも役立つ基礎英語・話し方（プレゼンテーション）の授業で就職先のレベルアップを目指し、就職に役立ったと考えている。

④「キャリアデザインⅠ・Ⅱ」では、接遇講座を実施する。社会生活における基本マナーである立ち振る舞いや身だしなみ、言葉使いなどを身につけさせ就職支援



を実施。

#### ⑤卒業研究

学科の集大成である卒業研究は、2年次生の必修科目として実施する。食に関するテーマに添って自発的・創造的に研究を進めることを目的とし、担当教員指導のもと作品展示と卒業研究発表会を実施し、卒業研究制作物（卒業研究レシピ集）を作成した。

### (5)学生募集関係

#### ①「調理製菓学科活性化プロジェクト」

調理製菓学科の将来的なビジョンを明確化し、それに向けての活動を行う行動的なプロジェクトチームを結成。定員数以上の出願者数を確保し、定員数増加のための基礎を作り上げながら、様々な取組を推進した。

#### ②高校生対象グルメフェスタ

入学を検討している高校生がレストラン実習のランチを試食することにより在校生の実習の様子を直に感じてもらい、本学の魅力を伝えるとともに、理解を深め、納得のうえでのA0入試、特別推薦入試をメインとした出願へと繋げることを目的とし実施。

対 象：本学入学希望者

実施日

- ・第一回 4月22日（日）
  - 第一部 本館305実習場・製菓実習室におけるミニ体験実習
  - 第二部 レストラン実習場におけるティータイムと入試説明
- ・第二回 5月27日（日）
  - 第一部 本館305実習場・製菓実習室におけるミニ体験実習。
  - 第二部 レストラン実習場でのランチ（調理コースカフェクラス）デザート（製菓コース）の試食と入試説明。
- ・第三回 6月24日（日）
  - 第一部 本館305実習場・製菓実習室におけるミニ体験実習。
  - 第二部 レストラン実習場でのランチ（調理コース技術クラス）デザート（製菓コース）の試食と入試説明。

③ミニグルメフェスタ（クリスマスイベント、バレンタインイベント）の実施  
来年度募集停止により中止。

#### ④近隣高校出張授業及び入試説明会

過去数年にわたり、出張授業実績のある興国高校や近隣高校（箕面市・池田市・川西市・豊中市・宝塚市）を中心に積極的に出張授業及び入試説明会を実施。

#### ⑤青山レストラン解放デイ（入学希望者対象）

高校の授業（試験）期間外での「青山レストラン解放デイ」の設定。  
青山レストランの試食を通して在学学生の実習をしている様子を見て本学への理解を深めてもらう事を目的としていたが希望者無し。

#### ⑥フリー実習見学会（入学希望者）

高校の授業（試験期間）期間もしくは授業終了後に本館 305 調理実習場・製菓実習室でのデモンストレーション及び調理実習場見学会の随時受付。

体制はとっていたが希望者無し。

⑦祝日でありながら本学は通常授業日を利用した入学希望者見学

高校生は休みの日に調理製菓の実習及び調理製菓の実習室・レストラン見学

7月16日（月）海の日 10月8日（月）体育の日（調理実習・製菓実習）

11月23日（金）勤労感謝の日（調理実習室・製菓実習室・レストラン）

体制はとっていたが希望者無し。

⑧レストラン営業日、高校進路担当教員のご招待と説明会

レストランの営業日だけを高校進路担当教員に伝え、レストラン見学及び試食。本学の良さを知って貰うことで、高校生へのアピール増へ。

体制はとっていたが希望者無し。

⑨トワイライトオープンキャンパス

近隣高校の授業終了後、18：00 頃からの平日開催。

計画はあったが実施していない。

⑩オープンキャンパス

本学への入学を希望する者に本学の魅力を伝え、入学前の不安や疑問を解消し、本学に対する理解を十分に示したうえでの入学へと導く。

ア レストラン実習場にてカフェドリンク体験を実施。写真展示やテーブルコーディネート、ユニフォーム試着撮影コーナーを設置し、在校生や教員とのコミュニケーション空間とする。スタッフ学生は入学した後も先輩として在籍している1年次生を中心にコミュニケーションをとることにより、入学した後の不安の解消に繋げる。卒業生の就職先リストも展示、自分の将来をよりシミュレーションできるパネル展示を実施。

イ 在学生の紹介

在学生の出身地・出身高校を顔写真入りのパネルに個別のメッセージを添えて展示。出身地、出身高校の先輩からのメッセージにより親近感と安心感を与える。高校生は母校出身者に興味を持ち閲覧していた。

⑪小冊子作成

来年度募集停止により中止。

⑫留学生受け入れ態勢の強化

近年の日本食ブームに合わせて留学生の獲得を目指す。

語学学校や領事館、大使館などへの募集要項配布や入試説明を行う。

留学生が入学後の学修をスムーズに行えるような環境整備を進めている。

(6) 学生生活

①イベント活動による学生生活充実度の拡充（希望者対象）

年間を通じたイベントプロジェクト「OZ(オズ)」の実施。イベントを通じて学生同士のコミュニケーションによる協調性、団結力を養う。

教員と学生のコミュニケーションをはかり学生との相互の信頼関係を構築。

本学での2年間の学生生活をより満足度の高いものとし、愛校心を抱き、卒業後も信頼関係が継続的に保たれることを目的とし実施。

ア ボーリング大会 (5月)

イ七夕 (7月)

ウ クレープ作り (8月)

エ アウトドアクッキング&すいか割り (9月)

オ 餅つき (12月)

②特別時間による学修フォローアップ実施

ア 基礎学力の定着化 (学習支援室との連携)

イ 面談 (学生動向、相談 他)

ウ 個人に合わせた目標設定とその見直し

エ 指導 (ノート作成・技術習得・卒業研究)

オ 定期試験対策

カ 各種資格試験対策

キ 就職活動指導 (進路支援課との連携)

ク 学生生活における不安の早期発見とその解消

ケ 計画的な履修指導と学生便覧の理解

コ アンケート

③技術習得不足の学生に対するフォローアップ

卒業までの技術習得達成目標に及ばない可能性のある学生に対して実習場の空いている時間帯や長期休業中を利用し、徹底指導するなどの方策を駆使し、学生全員が基準レベルまで技術向上出来る様に実施。

④就職支援

進路支援センターと教員がさらなる協力体制を強化し、全員が就職できるよう就職活動を支援する。月1回、就職課と情報共有を実施。

## (7)退学者抑止策

①入学前オリエンテーション・懇親会実施

入学前オリエンテーション時に懇親会をレストランで行い、新入生及び先輩との親睦を図る。また、各コーナーで相談や先輩の声、知りたい事など先輩とのコミュニケーションの場を作る。

アルバイトが主になり遅刻や欠席につながる為、注意喚起も行う。

②情報の共有

出席回数・取得単位の不足・経済問題など担任及び学科全体、各担当部署と連絡を密にとり情報を共有する事で問題のある学生を早期に発見し、早期に働きかけることで退学、除籍防止を最小限にとどめるよう努めた。

③欠席回数の把握

3回以上の欠席で有れば必ず連絡頂ける様になり、把握しやすくなる。

④精神的な不安や障害など教員が精神面で追い詰めるような素人対応せずにカウンセラー対応依頼。

毎年数名の学生がカウンセリングを受け、大変役だっている。

⑤保護者との連携

3回以上保護者欠席連絡。

成績不振や留年の可能性が有る学生の保護者への連絡や面談を行い早期対応するよう実施。

⑥必修授業は2限目以降に行う。

出来るだけ実施したが、全てはカリキュラム的に無理であった。

(8)その他

①保護者懇談会の実施

教育後援会総会の実施に併せて保護者懇談会を実施。学生の学修状況及び就職説明会を懇談会で説明。

②調理・製菓コンテスト参加の啓蒙

各種コンテストへの参加を学生に促し、入賞を目指した取り組みからチャレンジ精神の形成と創造性に富んだ思考を養わせることを図る。

空き時間を利用して技術指導を行ったが、調理・製菓コース共に入賞者無し。

③地域活動活性化

地域活動支援室と連携し、公開授業・食育授業・料理教室などを実施。

④園児食育活動の推進

食育活動の一環として平野幼稚園年長児を対象とした「西洋料理マナー講習」を実施。学生主導で今年は平野幼稚園卒園生1名が調理コース学生として指導参加。

⑤既卒者とのネットワーク形成

ホームカミングデイを通してネットワーク形成を図っている。

⑥既卒者のホームカミングデイ

7月31日～8月2日 実施。

卒業後の支援や情報交換・再就職支援などの情報を共有する。

⑦学生ブログの活性化

学生が学生生活のブログを発信した。

⑧青山ブランド商品化プロジェクト（詳細、見積もり等、リサーチ必要）

来年度学生募集により中止。

2 調理コース

(1)学外研修・集中講義関係

①2年次和食マナー研修

料亭での会食時における礼儀や作法を和食マナー講習の実践から身につけ、食事を共にする相手へのおもてなしや配慮の心を養うため実施。

対 象 : 調理製菓学科 調理コース2年次生

実施日 : 2月5日(火)

場 所 : 京都ホテルオークラ別邸 京料理 粟田山荘(調理コース)

②製菓製パン実習集中講義

調理コースの学生が、製菓コース所属教員による専門的な製菓・製パンの授業を受講することができるよう集中講義として実施。製パン3回、洋菓子2回、計5回の実施。

対 象 : 調理製菓学科 調理コース 1年次生 希望者

実施期間: 2月4日(月)~2月8日(金)

## (2) 調理コースのイメージ新化

### ① 調理技術クラス・カフェ調理クラスの明確化

特にカフェ調理クラスにおいてカフェスタイルを意識したメニューを増やし、ワンプレートランチなどでのバリエーションを加え、調理技術クラスとの差別化をはかり、学生個人においての将来像を描きやすいものに変更。

「調理技術クラス」

技術習得の徹底はもとより、各食材の下処理から料理を仕上げるまでをこなすことができ、豊富な調理知識を養った人材を育成する授業内容を実施。

「カフェ調理クラス」

基本的な調理法をしっかりと理解・習得したうえで、社会の食の流行を捉え、料理のジャンルにとらわれることなく、バリエーション豊かな料理の創出ができる人材を育成する授業やメニュー構成で実施。

## (3) 資格関係

### ① 大阪府ふぐ処理登録者講習 資格試験

大阪府ふぐ処理登録証の資格取得を目指し、学内での事前講習の徹底。調コース設立以来の合格率100%を維持した。

対 象 : 調理製菓学科 調理コース 2年次生

実施日 : 11月15日(木)

### ② 技術考査資格試験

6年以上の実務経験を得たうえで専門調理師を目指す際に筆記試験免除となるための資格取得のために試験対策を実施した。

対 象 : 調理製菓学科 調理コース 2年次生

実施日 : 1月24日(全国一斉)

合格者 : 受験者31名 合格30名

## (4) 学生生活

### ① 在学生保護者のレストラン解放

保護者へのレストラン予約受付を告知し、ランチを体験していただくことにより、学生が実習に対して真剣に取り組む姿勢と成長していく姿を実感してもらう事が出来た。また、教員と保護者とのコミュニケーションの場にもなっている。

### ② 在学生保護者レストランご招待(兼保護者会)

実施日 : 12月19日・20日 実施

保護者への感謝の気持ちを込めて、レストラン最終営業日(自作メニュー)に招

待状を送って参加いただき、2年間の学びの成果と成長をお披露目した。また、理事長・学長の挨拶や学生の挨拶も交え、保護者や学生に対し良いイベントとなった。

### 3 製菓コース

#### (1) 資格関係

##### ① 製菓衛生師国家試験受験

在学中に製菓衛生師免許の取得を支援する。

##### ・ 製菓衛生師国家試験対策の実施

製菓コース2年次生全員が、在学中に製菓衛生師免許の取得を目指し、国家試験対策を各科目について実施。国家試験対策としては講義と模擬試験を実施し、受験者全員の合格を目指す。また、三重県での試験に受からなかった学生は、再度他府県で受験が出来るよう支援する取組みを実施。

受験者：2年次生 全員（製菓衛生師養成課程履修した者）

実施日：平成30年11月11日(日)

場 所：三重県

合格者：受験者30名 合格者23名

#### (2) 学外研修

##### ① 2年次テーブルマナー研修

ホテルでのテーブルマナーとデザートに特化した研修を実施。

製菓コース2年次生

実施日：平成30年2月5日(火)

研修先：ANAクラウンプラザホテル大阪

#### (3) 大量調理と販売

製菓、製パンの基礎知識を生かした専門的な実習として、2年次から学内販売と大量調理を実施する。グループに分かれて学内で試作研究し大量販売を行う。内容はメニューの考案から大量調理の仕込み、そして、原価計算、ラッピング、販売サービスまでを実際の店舗販売のように模擬授業を行う。

##### ① パン、焼き菓子の販売

実施日：前期

場 所：製菓実習前

実施回数：3回

##### ② 洋菓子の販売

実施日：後期

場 所：青山レストラン

実施回数：3回

#### (4) 製菓実習室の整備

来年度学生募集停止に伴い、経年の劣化による冷蔵庫等の機器、備品、器具等整備は必要に応じて行う。

## v 附置・附属機関

### 1 大阪青山歴史文学博物館

平成30年度は秋季に「所蔵品展」を開催した。その他、所蔵資料（原本、写真・画像）の貸出、当館を会場とする研修会や見学会、講座、更に職員（主任学芸員）の出張講演、講座等の催しも開催した。

#### (1) 展覧会の実施

##### ○ 秋季所蔵品展『幕末維新・英雄の書』

（平成30年11月1日～11月30日） 開館26日 入館者490名

#### (2) 資料貸出

##### 【原本】

##### ○ 『役行者絵巻』（上巻）1巻

申請者 鳥取県立博物館

申請日 平成30年4月6日

目的 企画展『大いなる神仏の山 大山ーその歴史と民俗ー』（平成30年6月2日～7月1日）に出品のため

##### ○ 『梨子地葵牡丹紋散二葉葵唐草蒔絵十種香道具』1揃

申請者 メトロポリタン美術館（アメリカ・ニューヨーク）

申請日 平成30年4月27日

目的 特別展『源氏物語の世界ーThe Tale of Genji:A Japanese Classic Illuminated』（平成31年3月5日～6月16日）に出品のため

##### 【写真・画像資料】

##### ○ 『土左日記』1点

申請者 日本放送協会制作局第一制作センター青少年教育番組部

申請日 平成30年4月6日

目的 「10min. ボックス国語/古文・漢文（HPでの動画配信）に使用のため

##### ○ 『織田信長黒印状 元龜四年四月十五日付』1点

申請者 戎光祥出版株式会社

申請日 平成30年4月12日

目的 『織田信長文書を読む』に使用のため

##### ○ 『土左日記』1点

申請者 株式会社 便利堂

申請日 平成30年4月25日

- 目的 『国宝事典』（第四版）に使用のため
- 『後水尾天皇像』1点
- 申請者 株式会社 新潮社
- 申請日 平成30年4月27日
- 目的 『芸術新潮』7月号 特集「天皇と美術のものがたり」
- 『明智光秀書状写（下条文書の内）』1点
- 申請者 株式会社 ユニット
- 申請日 平成30年5月19日
- 目的 テレビ東京『リトルトーキョーライフ』番組内「質問道場～明智光秀編～」に使用のため
- 『開陽丸』1点
- 申請者 株式会社 洋泉社
- 申請日 平成30年7月10日
- 目的 『歴史REAL 徳川一族』に使用のため
- 『水無瀬三吟何人百韻』1点
- 申請者 天理大学附属天理図書館
- 申請日 平成30年8月1日
- 目的 天理図書館報『ビブリア』第150号に使用のため
- 『土左日記』1点
- 申請者 株式会社NHKエデュケーショナル
- 申請日 平成30年8月3日
- 目的 京都造形芸術大学 芸術学部共通専門教育科目『芸術教養講義』（ストリーミング配信の映像教材）に使用のため
- 『土左日記』1点
- 申請者 株式会社新学社
- 申請日 平成30年10月2日
- 目的 『国語活用資料集』に使用のため
- 『新田義貞祈願状』1点
- 申請者 群馬県立歴史博物館
- 申請日 平成30年12月5日
- 目的 『大新田氏展』展覧会図録に使用のため
- 『土左日記』1点
- 申請者 株式会社 プランディット
- 申請日 平成30年12月7日
- 目的 『中学 見て学ぶ国語（知識探求編）』（株）増進堂・受験研究社発行）に使用のため
- 『明治天皇勅書』1点
- 申請者 エー・アール・ティー株式会社
- 申請日 平成30年12月26日
- 目的 『月刊 江戸楽』連載企画「手紙が語る歴史秘話」に使用のため



○『土左日記』1点

申請者 教育出版株式会社

申請日 平成31年2月25日

目的 2021年度版『中学社会 歴史』に使用のため

(3)資料(原本)閲覧

○『吉見家文書』1括

申請者 島根県教育委員会、益田市教育委員会

閲覧者 中司健一氏(益田市教育委員会)、倉恒康一氏(島根県教育庁古代文化センター)、目次謙一氏(益田市駐在専門研究員)、長村祥知氏(京都文化博物館)、西田友広氏(東京大学史料編纂所)

申請日 平成30年9月26日

目的 「中世石見における在地領主の動向研究」及び「中世石見国高津川流域の資料調査と研究」のため

○『明智光秀書状』3点

申請者 亀岡市文化資料館

閲覧者 上甲典子氏、大欠哲氏(2名、同館職員)

申請日 平成30年12月6日

目的 展覧会開催にあたっての事前調査

○『織田信長朱印状写』『明智光秀添状写』『小島当知行分差出書付写』3件

申請者 亀岡市文化資料館

閲覧者 上甲典子氏、大欠哲氏(2名、同館職員)

申請日 平成30年12月11日

目的 展覧会開催にあたっての事前調査

(4)研修・見学会 ( )は参加人数

平成30年

4月5日 新入生オリエンテーション 北摂キャンパス見学(285名)

6月16日 かんさい・大学ミュージアム連携講座「大学ミュージアムで学ぶ歴史と文化」受講生(10名)

6月22日 本学健康栄養学科1年次授業(60名)

11月22日 大和自治会見学会(66名)

12月6日 川西市けやき坂公民館 歴史文学講座受講者(18名)

12月15日 本学子ども教育学科1年授業(75名)

(5)学園(博物館)主催講座、展示解説 ( )は参加人数

平成30年

11月7日 所蔵品展『幕末維新・英雄の書』展示解説(23名)

11月14日 所蔵品展『幕末維新・英雄の書』展示解説(5名)

11月21日 所蔵品展『幕末維新・英雄の書』展示解説(25名)

- 11月 28日 所蔵品展『幕末維新・英雄の書』(25名)  
12月 5日 地域連携講座『幕末維新・英雄の書 見学と展示解説』(22名)

(6)学芸員出張講座

平成30年

- 11月 29日 川西市けやき坂公民館 歴史文学講座『幕末を翔けぬけた人々』

(7)その他の活動・催し ( )は参加人数

平成30年

- 4月 13日 平野幼稚園総会(328名)  
11月 1日～30日 かんさい・ミュージアムネットワーク スタンプラリー参加  
11月 17日～18日 北大阪ミュージアムメッセ ブース参加(国立民族学博物館)  
11月 18日 「関西文化の日」に参加

平成31年

- 3月 6日 平野幼稚園総会(約104名)

2 図書館(3号館図書室・4号館メディアセンター)

(1)利用サービスの充実

①学生選書の一部導入

当日、台風に見舞われ交通機関が運休したため選書ツアーの計画は中止せざるを得なかった。しかし、希望する学生を引率して書店に出向き、学生の読みたい本を選書し購入するとともに、学生との対話を通じて各学科の図書館利用のニーズ等を図書館職員が把握する機会を設け、更には学生により良い図書館の環境を守る、という当事者意識を持たせ、図書館を身近なものと感じてもらおうよう選書ツアーの計画は実施する必要があるので来年度も計画する。

②ガイダンス

図書館の利用方法、オンライン目録(OPAC)の使い方、論文検索の方法などの説明会を開催することで、利用者がスムーズに図書館機能を使いこなせるようにした。平成28年度以降は看護学科新入生全員に対し、学生参加型のガイダンスを行い好評を得た。また、他学科の新入生対象についても昼休み時間にガイダンス日を設けて実施した。

③図書館だよりの発行

平成24年度より月1回発行しており、学内の図書館ホームページでも創刊号から最新号まで見られるようにしている。昨年度同様、内容に多様性を持たせ、さらに利便性の高い誌面づくりに努めた。

④学内ホームページ

平成28年2月から新たに公開しているホームページを、より一層充実した内容にした。また、お知らせ欄などによる最新情報の発信や資料検索に役立つコンテンツ充実などを積極的に公開し、利便性の向上に努めた。

⑤オンライン目録(OPAC)の公開

本学内からしか検索・閲覧できなかつた蔵書の一部を学外利用者の利便性向上及び教育研究活動の情報公開の一端として1年間の準備を行い、今年度、公開した。

#### ⑥学術機関リポジトリの公開

『大阪青山大学紀要』は最新刊の10巻を公開し、『大阪青山大学看護学ジャーナル』は第2巻を公開した。

また、リポジトリ運用指針を見直し、種々の教育成果物の公開が出来るようにした。

#### ⑦法律情報データベース『D-1Law.com』説明会

平成29年度に引き続き、教職員向けの使い方説明会を行い好評を得た。

#### ⑧学科、他部署との連携

看護学科が完成年度を迎えたことから、看護学科も含め、全学科の継続雑誌の見直しを行った。

また、就職・進学するにあたっての予備知識、社会の一般常識、マナーの構築等に役立つ資料を充実させ利用の向上に努めた。

#### ⑨図書室とメディアセンターの学外者の利用

地域住民の教養を高め、学術・教育への貢献に寄与するため、図書館を一般に公開した。キャンパス内に、学外者が立ち入ることになるため、学生や教職員の安全の確保に留意するため、段階的に進めるものとした。平成30年度は、公開講座に出席された一般の方で、住所、連絡手段の明らかな方に図書室やメディアセンターへの入館を認めた。近隣地域の教育機関の教職員については、貸出や有料の文献複写のサービスも出来るように検討したい。サービス開始の周知のために広報を行い、来館者には入館証を作成した。

#### ⑩学生用コピー機の入替え

4号館2階に設置している学生用コピー機は老朽化に伴い故障、紙詰まりが頻発していた。また、学生より要望があったので白黒コピー機からカラーコピー機に入れ替えを行った。

### (2)資料の管理

#### ①蔵書の構築

貸出・閲覧ランキング、レファレンス記録などを参考にしながら必要な資料を把握し、図書委員会において適宜選書、購入した。また、学生の学習に適した図書を充実させるため、学生自らによる購入のリクエストおよび教員・学科のリクエスト本の購入を行った。

#### ②蔵書点検及び整備

定期的に行っている蔵書点検を今後も実施した。平成28年度より貸出期限を設定し、返却が遅れている利用者には督促を行う等、今年度も引き続き資産管理を徹底して行った。

#### ③紀要の整理

廃科となった学部の紀要の所蔵の有無を見直し、整理を引き続き行った。ネット上で閲覧可能なものについては冊子体受入辞退の連絡を随時行い、配架スペースの確保に努めた。

### 3 体育館

#### (1) フィットネスクラブ

・会員数	65歳以上会員	234人 (82%)
	一般会員	53人 (18%)
	計	287人
・利用平均	1日	87人
	1か月	2,200人

現在、入会待ち加入希望者はいない。定員枠は昨年度と同じく正会員180名、午後会員130名の310名であるが、会員数は15名減少している。年間利用者数は昨年度に比べて939名増26,021名である。

フィットネス利用状況 (人数)

	一般会員	高齢会員	計
4月	295	1,732	2,027
5月	330	1,873	2,203
6月	373	1,909	2,282
7月	349	1,836	2,185
8月	293	1,694	1,987
9月	326	1,945	2,271
10月	353	2,028	2,381
11月	309	1,989	2,298
12月	248	1,673	1,921
1月	283	1,953	2,236
2月	282	1,993	2,275
3月	312	2,027	2,339
合計	3,753	22,652	26,405

#### (2) テニスクラブ

クラブ会員数	52人
スクール会員数	6人
クラブ制スクール会員数	3人

テニスコート利用状況 (人数)

	自治会	スクール	クラブ	計
4月	26	24	522	572
5月	23	25	453	501
6月	38	32	576	646
7月	18	39	413	470
8月	33	0	437	470
9月	29	31	375	435
10月	21	50	572	643
11月	32	41	537	610
12月	8	26	446	480
1月	26	30	483	539
2月	28	31	458	517
3月	22	18	462	502
合計	304	347	5,734	6,385

(3) 体育館施設利用状況

星槎大学のスクーリング、平野幼稚園生活発表会などの利用があった他、3,778人の一般利用があったが、利用者は特定化されつつある。

[利用内容]

アリーナ : バレーボール・バスケットボール・卓球・剣道・フォークダンス

講義室 : 会合、英会話、和室 : 自彊術・ピラティス等

体育館施設利用状況 (人数)

	アリーナ	講義室	和室	計
4月	128	60	65	253
5月	208	40	94	342
6月	135	40	94	269
7月	265	200	100	565
8月	135	50	100	285
9月	190	40	114	344
10月	225	40	94	359
11月	220	20	162	402
12月	80	20	122	222
1月	95	40	92	227
2月	80	40	94	214
3月	179	40	77	296
合計	1,940	630	1,208	3,778

学生 (ソフトボール部以外のクラブ活動含)

大学関係者 体育館施設利用状況（人数）

	アリーナ	講義室	和室	テニス	計
4月					
5月				10	10
6月				20	20
7月					
8月	7			7	14
9月					
10月					
11月	335			20	355
12月	641	480	480	6	1,607
1月					
2月				3	3
3月	174				174
合計	1,157	480	480	66	2,183

(4) 収 入

(単位:円)

	アリーナ・講義室・ 和室	フィットネス	テニス	計
4月	46,570	1,026,575	724,800	1,797,945
5月	71,520	1,029,598	243,000	1,344,118
6月	77,550	1,020,058	423,900	1,521,508
7月	176,474	1,008,071	97,200	1,281,745
8月	79,860	1,031,173	264,400	1,375,433
9月	63,540	1,017,797	243,000	1,324,337
10月	68,453	1,009,954	144,400	1,222,807
11月	107,405	948,910	536,200	1,592,515
12月	131,520	1,038,378	108,600	1,278,498
1月	2,500	968,185	48,600	1,019,285
2月	102,120	992,021	30,000	1,124,141
3月	60,890	982,935	340,200	1,384,025
合計	988,402	12,073,655	3,204,300	16,266,357

(5) 主な行事・活動

4月5日(木)	新入生見学会	調理製菓学科、子ども教育学科 健康栄養学科、看護学科
4月6日(金)	前期授業開始	健康栄養学科
4月10日(火)	前期授業開始	子ども教育学科

5月1日(火)～5日(土)	女子ソフトボール部	北摂学舎合宿
8月25日(土)～27日(月)	女子ソフトボール部	北摂学舎合宿 美作大学と合同
12月2日(日)	生活発表会	平野幼稚園
12月8日(土)～9日(日)	女子ソフトボール部「第22回中学生・高校生ソフト研修会」	
3月2日(土)～3日(日)	女子ソフトボール部「阪神オープン大会」 対戦：大阪体育大学、東北福祉大学、関西大学、九州共立大学他	
3月6日(水)	総会	平野幼稚園
3月20日(水)～21日(木)	女子ソフトボール部	北摂学舎合宿 I P U大学と合同

#### (6) 地域貢献

地域への社会貢献活動として次の活動を行った。

- ・大和自治会にテニスコート開放
- ・能勢電ハイキングへの協力 7月19日(木) ゴール地点  
9月12日(水) スタート地点

#### 4 共通教育センター

##### (1) 平成30年度事業の進捗状況について

本センター設置の趣旨「全学的な教育施策の企画立案ならびにカリキュラム開発などを担当する」に基づき、本学ならではの教養教育ならびに各学科の特色を生かした、実効性のあるリメディアル教育・初年次教育の充実を図るべく委員会を開催し、その都度、各科目担当教員より学生の学修態度や学びの状況などを相互に報告するとともに、全学的に共通する教育プログラムの質的評価と新たなプログラムの可能性について意見を交換した。

##### (2) 各施策の報告と評価

###### ① 共通教育の内容充実に関する検討

ア リメディアル教育については、現行の通信型およびeラーニング型のプログラムを継続実施したが、通信型の課題(日本語)については今までの非常勤講師によるプログラムから専任教員の手による資料読解型課題に変更して実施した。

イ 教養教育については全学科において科目の開講が実現できたので、効果の検証の仕組みを構築し、試行的な検証作業を行うこととしていたが、授業アンケートの結果検証が未実施であるため、次年度への継続課題とし、令和元年度の早期に検証作業を行うこととする。

ウ 初年次教育については、昨年度の検討を踏まえ、各学科の特質に沿った初年

次教育プログラムを、共通教育センターと学科の協議によって策定していくとともに、学科横断的・全学的初年次教育の可能性とその内容について検討するとしていたが、十分な検討を行うに至らなかった。

②入学前教育の調査研究および開発運用に関すること

現行の入学前教育プログラムについて学科と連携した評価を行うこととしていたが、実施に至らなかった。大学および短期大学部全体で導入している「アオドリ」(eラーニング)については昨年度と同様に大学の「日本語Ⅰ」(全学科修)における単位取得のための前提要件としていたため、ほぼ100%の課題実施率となった。

③その他全学的に共通する教育に関すること

アクティブラーニング環境(ラーニングコモンズ等)の充実に向けた教室整備について提案することとしていたが、学内事情(メディアセンターと図書室の一元化)にかんがみ、図書室のラーニングコモンズへの転用を念頭に継続検討することとした。

## 5 情報教育センター

### (1)情報教育センターの業務と本年度事業の特色

「情報教育センター」は、学内情報化推進と情報システムの適正な運用を図るための実務を担当し、実施している。主要な業務は以下の通りである。

- ①利用者管理
- ②施設管理
- ③教育研究支援
- ④その他

平成30年度事業の特色は次の通りである。

- ①ファイアーウォールの導入
- ②新教務システム導入協力
- ③本館202教室の学生パソコン整備

### (2)利用者管理

#### ①大学・短期大学の学生・教職員に対する利用者登録および利用者管理

平成29年度の新規登録者数は、大学学生240名(内編入生4名)、短期大学部学生50名、教職員42名であった。このほかに部局等の業務用利用者2ユーザーを登録した。

新入学生について、1年次生には情報関連授業の第1回で利用者登録を行った。大学・短期大学ともに1年次前期に情報関連授業を受講するカリキュラムとなっており、前期授業第2週までに利用者登録を終了し、授業および研究に支障がないように配慮している。一方、大阪青山大学への編入生に対しては授業での登録が困難なため、特別に時間を設けて対応した。

利用者登録の際には情報教育センター発行の「コンピュータ利用の手引」を共通テキストとして使用している。平成30年度は昨年度に引きつづいWindows10



環境版「コンピュータ利用の手引」第7版を配布した。

教職員に対しては、随時、利用者登録を受け付け、教育および研究への情報施設・設備利用の便宜を図った。

#### ②科目等履修生などの利用者管理

科目等履修生などの利用者登録はなかった。科目等履修者に対してはその都度、必要に応じて利用者登録を行うこととしている。

### (3)施設管理

#### ①ネットワークやコンピューター室等の情報施設・設備の維持・管理

年間を通してネットワークやコンピューター室などの施設・設備の維持・管理に当たった。このために、前年度と同様に株式会社三谷商事と保守契約を結び、授業期間中の週3日、人員の派遣を受けた。

ア 学生利用パソコンおよび教職員の研究・業務用パソコンに対して

学生向けには、第1コンピューター室(211教室)・第2コンピューター室(206教室)・情報教育センター室(4-210教室)・学生談話室などのパソコン・プリンタの維持・管理を行った。また、昨年度末に機器の整備のみを終えていた202教室の間仕切り等の整備を終えて6月より「コンピューター自習室」として開室した。このほかにも日々、学生利用時間後の整備を実施し、機器故障への対応を実施した。主なものとして、プリンタのインク交換、キーボード・マウスの故障交換、教員パソコン画面提示用の中間モニタの故障修理などである。

プリンタのインク交換については、予算不足から8月から12月までの間には完全にインク切れとなるまで交換を行わないこととしたところ、学生生活実態調査の自由記述欄に「プリンタのインク切れが多い」との意見が複数上がることとなった。補正予算を組み、インクは補充できたが、実際のインク切れだけでなく、学生がヘッドクリーニングの方法を知らない結果としてインク切れと勘違いしていることも多いと思われる。この点についても指導を強化していく必要がある。

また、平成30年8月下旬・平成31年2月下旬の2回にわたりコンピューター室の学生用および教員用コンピューターすべてのハードディスク内容を再構築し、修正プログラムを適用してセキュリティの向上とソフトウェアの安定動作を図った。

教職員向けには、新規採用教員の研究室パソコンの整備を行うとともに日々の求めに応じて、不具合対応、メンテナンス・修理等を行った。研究上の必要から私費で購入したパソコンを学内ネットワークに接続する際、情報教育センターでは、

- ・OSを最新の状態にすること
- ・本学で利用しているウィルス対策ソフトウェアおよびモニタリングソフトウェアをインストールすること

を条件として接続を許可しており、あわせて設定作業を行っている。近年、年間20台程度から増加の傾向にある。また、ネットワーク接続にeduroamを利用

すれば、これらの設定も必要なく、インターネットを利用できる。あわせて特に教員利用のパソコン数は増加傾向にある。

#### イ ネットワークに対して

事業計画段階では仮想基盤システム全体とファイアーウォールの更新を計画していたが、ファイアーウォールのみ更新の許可があり、仮想基盤システムの更新は見送りとなった。令和元年度も仮想基盤システムの更新は難しいが、メーカー保守の限界もあり、令和2年度には更新を実現すべく計画する必要がある。

新教務システムがクラウド化されることによる通信量の増大に対応するため導入された新ファイアーウォールは、あわせてWEBフィルタリングやメール等のウイルスチェック、SSLVPNによる学外から学内ネットワークへの接続サービスなどを統合して各サービスのライセンス料を低減させるべく導入された。8月から試験稼働、10月から本格稼働している。いくつかのセキュリティレベルの高いWEBサイトへの接続に不具合があったが、本格稼働までに解消された。

無線LAN接続については、現有の環境を安定的に運用することに努め、また国立情報学研究所(NII)が運用主体となった国際学術無線LANローミング基盤「eduroam」の安定運用に努めた。特に学生が取得したアカウントを正確に入力できず接続できない事故が多発している。また、電波の弱い場所では認証に時間がかかることとあわせて接続に失敗する場合があることが報告されている。これらについて、今後、案内等を強化する必要がある。

平成30年12月頃から本館に対するネットワーク接続が切れる事象が発生するようになり、インターネット接続やネットワークドライブ上のファイルができなくなったり、ファイルの保存ができなくなる不具合が相次いだ。最終的に年度末間際に4号館情報教育センター設置のセンタースイッチにある本館向け光ケーブルインターフェースの不具合と判明した。現有機器の構成を組み替え、費用をかけずに不具合を解消した。具体的に不具合が起きている場所と、故障機器との距離が離れているため原因究明に時間がかかってしまった。ネットワーク装置も更新時期を迎えており、仮想基盤システムとあわせて令和2年度には更新を実現すべく計画する必要がある。

#### ウ セキュリティについて

コンピュータセキュリティを向上するための対策として、システム上の対策と、教育・啓発活動による対策を実施している。

システム上の対策としては、ウイルス対策ソフトウェアの導入、ファイアーウォールの設置、スパムメールフィルタやWebフィルタリングなどさまざまな対策を実施している。今年度は、新ファイアーウォールの導入により、これらを統合して強化するとともに費用の低減にも努めた。一時、ネットワークの入り口防衛を強化すればパソコンへのウイルス対策は不要になる、との考えもあった。

しかし現在では、完全な防衛策はなく、侵入される可能性がある以上、パソコンへのウイルス対策も必要であると考えられている。今後も、対策を強化していきたい。

また、教育・啓発活動としては授業を通じたセキュリティ教育、教職員向けの情報提供など啓発活動を行っている。学生対象の対策として、情報教育センター発行のテキスト「コンピュータ利用の手引」の中にセキュリティについて必要な事項を盛り込むと同時に、授業内でもセキュリティに関する事項が扱われるよう配慮している。教職員向けには、ゴールデンウィーク・夏季・冬季の休業などの前に、情報システムの管理、個人情報の管理などについて一層の注意を促す呼びかけを行った。学内だけでなく、学生・教職員の自宅でのセキュリティ・ウィルス対策の強化も引き続き呼びかけていく。

#### ③情報サービスの運用・協力

教務部の運用する CampusAvenue システムの運用に協力した。平成 29 年度もインターネットからの教員による成績入力、および学生に対する成績開示閲覧を行った。設定を調整するとともに情報教育センターで通信状況を監視・制御することで大きな混乱を回避することができた。

令和元年度から導入予定の新教務システムの導入作業に協力した。新システムは AWS (Amazon Web Services) 上にあり、学内からの安定的接続ができるようファイアーウォール等の調整を行うとともに、学生用パソコン上にポータルサービスへのリンクが表示されるよう設定を行った。

また、図書館が担当している機関リポジトリの運用に協力した。

#### ④ソフトウェアの整備

Microsoft Office/WindowsOS の包括ライセンス契約を継続し、新規導入されるパソコンに対して Office 等の標準的な整備を行った。

年間レンタル契約で導入している統計ソフトウェアパッケージ SPSS については、卒業研究や教員の研究に活用されている。特に看護学科の利用者が大幅に増える状況であるが、ライセンス数の増加が難しい状況である。しかも、今後とも毎年およそ 5% のライセンス料の値上げが予測される。予算を据え置くだけではライセンス数の不足を招き、研究・教育に支障が出る可能性は否定できない。なお、新ファイアーウォールによる学外からの SSLVPN 接続によって、学外から SPSS 利用が可能となるよう、現在、システム上の調整を行っている。

### (4) 教育・研究支援

#### ①センター室の運用

授業期間中の月曜日～金曜日 12:30 から 16:30 まで、センター室を開室した。センター室では、学生のパソコン利用の他、質問の受付、各種手続きの対応、卒業研究指導のサポートなどの教育支援を行った。また、教職員からのパソコン利用相談や学会発表用のポスター印刷の相談などを受け、教育研究への支援活動を行った。大型プリンタは、卒業研究発表やオープンキャンパスなどの学内行事ポスターの作成、学会発表用ポスターの作製など、多方面に活用されている。平成 29 年度に故障したこの大型プリンタが 11 月頃に再度、故障した。本年度は修繕費用をあらかじめ見込んでいなかったため、令和元年度予算に組み込み 4 月当初に修理を行う予定である。

## ②情報活用環境の整備

経費上の制約と専任職員不在の状態では、決して満足のいく対応ができていないわけではない。その中で、以下のような対応の努力を行った。

### ・学内情報サービス

学内ホームページを運用した。各部署や図書館・メディアセンターのサービスへの入口としての機能を持つ。また、各部署や学科等のための共有ディスク領域を提供した。

### ・教職員パソコンの再配置・再整備

退職や配置転換によって使用者不在となったパソコンを再整備して必要箇所に配置した。また、部局・研究室等の配置換えや新機種購入に際しての各種の整備を行った。

## (5)情報システム改善プロジェクト

平成 26 年度末より「情報システム改善プロジェクト」が設置され、学内多方面の人材を集め、「IT 環境の変化に即応した情報教育環境を整え、学内外から情報を収集し活用できる環境の整備」に向けて対応策を検討し、整備を推進していくこととなった。ここでの議論の結果を受け、教務部の CampusAvenue システムへの協力、各部署や学科等のための共有ディスク領域の利用、202 教室（フリーパソコン教室）整備などを行った。

## (6)環境問題への対応

学内に設置されているレーザープリンタのトナーカートリッジを情報教育センターに集め、リサイクルを行った。なお、インクジェットプリンタのインクカートリッジのリサイクルは、学生支援センターで行われているリサイクルに協力する形でを行った。

古くなったり故障したパソコン・プリンタ等の情報機器は、教職員個別に廃棄するのではなく、情報教育センターに集めて一括で廃棄することとしている。研究室で利用したパソコンなどには学生・共同研究者等の個人情報が残っていることがあるため、セキュリティ上、盲点になることもある。情報教育センターでしっかりと情報を消去したのち、資源としてリサイクルすることとしている。昨年度末に多数機器の処分を予定していたが、処分費用が高額となったため、一部機器に限定して平成 30 年度 4 月に処分を行った。

## (7)令和元年度事業計画についての検討

以上の平成 30 年度事業と「情報システム改善プロジェクト」からの指示を踏まえ、令和元年度事業計画内容を策定した。

- ① 教育・研究支援の充実と学园内情報システムの維持・管理
- ② クラウド化への対応
- ③ ソフトウェアの整備
- ④ パフォーマンスとセキュリティの向上

- ⑤ 環境問題への取り組み
- ⑥ 新世代ネットワークシステムの整備の準備

## 6 学習支援室

### 【平成 30 年度実施事業の成果と課題】

#### (1) 学習支援室利用数

今年度はスタッフ体制の拡充を行い、利用者数の維持を目標に取り組んだ。当室利用者数は 5,607 名あり、年度当初の目標を達成した。

	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
室構成員 (専任教員＋職員)	12 名 (9+3)	12 名 (9+3)	14 名 (11+3)	13 名 (10+3)
課業中の開室曜日	週 5 日 (月～金)	週 5 日 (月～金)	週 5 日 (月～金)	週 5 日 (月～金)
開室日数	202 日	232 日	237 日	234 日
利用者人数	4,148 名	3,981 名 大学：2,601 短期大学部： 1,034	5,054 名 大学：3,340 短期大学部： 1,441	5,607 名 大学：3,640 短期大学部： 1,667
1 開室日当たり利用人数	20.5 名	17.2 名	21.3 名	24.0 名

#### (2) 実施したプログラムの充実と拡大

下記に示すように、目標を達成した。

##### ① 運営委員による学習支援室オフィスアワーの実施

運営委員による学習支援室でのオフィスアワーは昼休みの開催が中心となる。学生へ圧迫感がなく、さらに運営委員の負担を少なくするために平成 28 年度よりオフィスアワーの実施は原則として、各教員が隔週で行うこととした。

	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
開催回数	123 回	67 回	53 回	59 回
利用者数	190 人	45 人	24 人	27 人

##### ② 学習支援アシスタント (SA) による支援の充実

後輩への学習支援、授業・講座補助、研修・委員会活動に加え、SA 自らが講座の企画・実施を多数行った。今年度は 54 名の SA を養成し、延べ 425 時間の支援を実施した。

さらに次年度の SA 育成についても、後期末に新旧 SA 引継ぎを行うことで、卒業年次の SA からの指導や活動内容についてスムーズに伝達できた。SA 活動を継続する意志のある SA については、研修等、3 月より活動を行った。

なお、委員会活動については計 9 回開催した。

### ③ 初年次教育の実践サポート

#### ア 初年次教育の実践サポート・ライティングセンターとしての機能強化

- ・複数の“青山コミュニティ”を開催するにあたり、各学科了解の元、学習支援室にて学習面・学生生活面における SA との相談会の場を設けた。
- ・室長が基礎教育科目「日本語Ⅰ」「日本語Ⅱ」「文章表現法」の授業を担当した。このことにより 1 年次生の学習の様子を運営委員会内で共有すると共に、1 年次生対象の講座への参加を広く呼びかけた。また、共通教育センターより英語科教員が運営委員に加わったことで、基礎学力に不安を感じる学生への個別相談の場を持つことができた。

#### イ 学びの質の向上を図るための企画と運営

- ・“青山コミュニティ”により、先輩学生である SA が講座中に後輩の勉強の仕方や日頃の学習計画について相談・計画を指導する場面を提供した。数そのものは少ないが、昼休みに SA へ個別に学習の質問を行う学生も存在しており、在学生がニーズを持っていることが窺える。
- ・平成 29 年度に引き続き、教養ミニ講座“青山コミュニティ”「楽しく、気軽にトーク・トーク!!」を実施した。学科や年代に関係なくコミュニケーションを意図したものであり、昼休みの 30 分間に開催した。また室長の担当科目の一環として進路支援センターとのコラボレーションとしても用いられた。

#### ウ 学生の教養の幅を広げるプログラムの充実

- ・4 名の卒業生（主に元 SA）を招き、講師として現在の仕事に就くまでの学びの過程について“青山コミュニティ”で講演を企画・実施した。
- ・また、学習支援アシスタント（SA）の育成強化については、①毎月 30 分間の SA 委員会を継続し、SA として望ましい態度などの養成や、他学科との交流・意見交換を行い、自主的に活動ができるように促した。後期の教養ミニ講座については、新企画を含め SA が中心となって講座を企画・実施した。
- ・平成 29 年度に引き続き、SA 委員会では、SA が学科毎に教養ミニ講座を企画した。その結果 SA を中心とした“青山コミュニティ”を 18 講座開催した。また、本年度は学科教員である運営委員が SA の興味関心に応える形での国家試験対策講座の開催等、新たな試みも行った。

学習支援室運営委員による教養ミニ講座の開講に加え、学生のニーズを受け、基礎学力に関する個別指導講座の開講を継続している。

#### 平成 30 年度 教養ミニ講座 開催数と参加者数

	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
開講講座数	17 講座	18 講座	18 講座	19 講座
参加者数	484 名	958 名	1,077 名	1,144 名

#### エ 発達障がい学生の理解と支援に関する学内研修講座

- ・発達障がい学生の理解と支援に関する学内連続研修講座の企画・実施

学習支援室企画として、平成30年7月5日に第8回発達障がい学生支援講演会を行った。「特性理解から自立をめざす支援へ」と題し、49名の参加が得られた。

- ・発達障がい学生の支援は担任を始めとする学科・関係部署との連携  
発達障がい学生に関する情報交換は常に担任、学生課（相談室）などの関係部署と連絡を取り合っている。

オ 学習支援に係る文献・資料の収集の継続

平成29年度に倣い、教養ミニ講座「振り返り学習」での基礎学力支援において、基礎科目担当教員に参考書や指導方法の準備を行った。

カ 先進地視察等による最新の学習支援の情報の提供

平成30年10月23日 独立行政法人日本学生支援機構 平成30年度「障害学生支援理解・啓発セミナー」（新大阪丸ビル別館）へ参加した。

平成31年3月12日 京都光華女子大学 平成30年度AP報告会（京都光華女子大学）へ参加した。

④ 学習支援に関する周知・広報活動の充実

学内のオリエンテーション、室の活動状況をブログで更新するなどを行った。

⑤ 学習支援アシスタントの活動

学習支援アシスタント（SA）54名を養成し、委員会活動として運営し、学科等の垣根を越えた学修に関する学生の話し合いや交流の場とすることができた。教養ミニ講座や大学祭での企画準備・実施についてもSAが担った。

教養ミニ講座“青山コミュニティ”へ参加することで異学年・他学科の学生との交流を行っている。更に、昼休みにSAが待機していることで、大学での学びや学生生活について後輩が質問に訪れる機会を提供できた。その他にSAは活動時間外でも自習活動などで他の学生を伴い、学習支援室を積極的に活用していた。

⑥ 学生の自主学習グループの育成

後期に、SAを中心とした同学年での勉強会を開催した。また運営委員とSAを含む学生の読書勉強会も複数回行った。

⑦ 『学習支援室10周年記念誌』発刊

「学習支援室10周年活動報告集」と名称を改め、これまでの活動の振り返りを行った。また、発刊については電子版を学術情報リポジトリへ掲載予定。

平成30年9月3日に、前室長の米田薫（大阪成蹊大学教授）氏を講師に、学びの支えとなる「人間関係」をテーマに講演会を行った。

付表 平成 30 年度 教養ミニ講座開催状況

□	開催日	タイトル	参加者数
1	5月30日	“青山コミュニティ” ①	15
	6月1日	「楽しく、気軽にトーク・トーク!!」 ～英語克服のためのコミュニティ～	31
	6月13日	“青山コミュニティ” ①	44
	6月28日	「楽しく、気軽にトーク・トーク!!」 ～苦手科目克服コミュニティ～	7
	12月11日	“青山コミュニティ” ① 「楽しく、気軽にトーク・トーク!!」	47
2	随時	「振り返り学習」	0
3	4月25日	“青山コミュニティ” ② 「看護学科4年次SAとのトーク・トーク」	39
	8月8日	“青山コミュニティ” ② 「看護学科4年次SAとのトーク・トーク その2」	5
	10月19日	“青山コミュニティ” ② 「看護学科4年次SAとのトーク・トーク その3」	12
	2月18日, 2月20日	“青山コミュニティ” ② 「看護学科4年次SAとのトーク・トーク その4」	22
	3月28日	“青山コミュニティ” ② 「看護学科4年次SAとのトーク・トーク その4」	15
4	5月8日～5月18日 クラス毎に開催	“青山コミュニティ” ③ 「先輩からのアドバイス」	336
5	5月29日	“青山コミュニティ” ④ 「健康栄養学科卒業生から後輩へ伝えたいこと」	11
6	6月8日	“青山コミュニティ” ⑤ 「調理製菓学科卒業生から後輩へ伝えたいこと」	28
			51
7	6月25日	“青山コミュニティ” ⑥ 「試験前! 先輩、教えてください!!」	18
	6月29日		13
	7月5日		19
	7月13日		60



8	9月28日	“青山コミュニティ”⑦ 「インターンシップ報告会」	64
9	11月12日	“青山コミュニティ”⑧ 「クラス分け、カフェ or 技術 どっちにする？」	33
	11月26日	“青山コミュニティ”⑧ 「クラス分け、カフェ or 技術 どっちにする？」 講座後相談会	15
10	11月13日	“青山コミュニティ”⑨ 「Pの先輩と話そう！」	28
	1月15日	“青山コミュニティ”⑨ 「Pの先輩と話そう！ その2」	8
11	11月23日	“青山コミュニティ”⑩ 「2年に向けての相談会」	31
12	11月23日	“青山コミュニティ”⑪ 「子ども教育学科卒業生から後輩へ伝えたい こと」	27
13	12月7日	“青山コミュニティ”⑫ 「何でも相談会」	31
14	12月10日	“青山コミュニティ”⑬ 「2年次に向けての準備相談会」	28
	12月14日	“青山コミュニティ”⑬ 「2年次に向けての準備相談会」講座後相談会	10
15	11月30日	“青山コミュニティ”⑭ 「お菓子パーティー&交流会」	9
16	11月26日	“青山コミュニティ”⑮ 「国試対策勉強会」	12
17	12月11日	“青山コミュニティ”⑯ 「教採対策をお話しします」	27
18	12月20日	“青山コミュニティ”⑰ 「お菓子&交流会」	18
19	12月17日	“青山コミュニティ”⑱ 「クリスマスを楽しもう」	30
参加者合計			1,144

## vi 委員会等

### 1 大学自己点検評価委員会

#### ○ 活動目標

当面の目標を「内部質保証システムの確立に向けた取り組みをすすめること」とし、認証評価第三サイクルにおいて重点項目化される「内部質保証」を見据え、その仕組みを整えていくための諸活動を推進した。

○ 活動内容

(1) 委員会活動

平成30年度の委員会開催内容は以下のとおりである。

開催日	議案（協議内容）
平成30年5月10日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「平成 30 年度 大学・短期大学評価セミナー」について</li> <li>・ 平成 30 年度自己点検評価活動について</li> <li>・ 各種委員会委員長等の参画について</li> <li>・ 学外委員の参画等について</li> <li>・ 各資格関係法令の確認について</li> <li>・ エビデンス集（データ編）の収集について</li> </ul>
平成30年7月5日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各種委員会委員長等の参画について</li> <li>・ 事業計画・事業報告との連携について</li> <li>・ 4年次生の進路に関する見通しについて</li> <li>・ 広報媒体の整備状況の確認について</li> <li>・ 各資格関係法令の確認について</li> <li>・ エビデンス集（データ編）の収集について</li> </ul>
平成30年8月30日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各種委員会委員長等の参画について</li> <li>・ 事業計画・事業報告との連携について</li> <li>・ 4年次生の進路に関する見通しについて</li> <li>・ 広報媒体の整備状況の確認について</li> </ul>
平成30年10月18日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事業計画・事業報告との連携について</li> <li>・ 4年次生の進路に関する見通しについて</li> </ul>
平成30年11月12日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 私立大学等改革総合支援事業について</li> <li>・ 4年次生の進路に関する見通しについて</li> </ul>
平成30年12月10日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 私立大学等改革総合支援事業について</li> <li>・ 4年次生の進路に関する見通しについて</li> </ul>
平成31年1月29日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 私立大学等改革総合支援事業について</li> <li>・ 私立大学等経常費補助金の交付申請に係る資料（教育の質に係る客観的指標調査票）への対応について</li> <li>・ 4年次生の進路に関する見通しについて</li> </ul>
平成31年3月5日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 私立大学等経常費補助金の交付申請に係る資料（教育の質に係る客観的指標調査票）について</li> <li>・ 私立大学等改革総合支援事業について</li> <li>・ エビデンス（根拠資料）の提出</li> <li>・ 4年次生の進路に関する見通しについて</li> </ul>

## (2) 自己点検評価活動と事業計画・事業報告との連携

事業計画書・事業報告書に自己点検評価の機能を含めることについて記述方法等を例示した。さらに試行的に事業報告書の内容を評価基準項目に転記し、その結果を検証した。委員長から、これらの記載内容を大学として取りまとめ脈絡のある文章にすることの必要性と作業そのものには委員長が当たるべきとの認識が示された。また、本取組のメリットとして、これまで評価項目の記述担当部署以外の部署のかかわり方については関知できなかったところが、この方式を採用することによって一つの評価項目であっても多くの部署がかかわることが明らかとなり、自己点検評価活動の全体像が見渡せ、全学的にPDCAサイクルを回すことが可能となり、全学単位での網羅的な内部質保証の実践が可能となることが指摘された。なお本方式は次年度に係る計画、報告から適用することとした。

## (3) 各種委員会委員長等の参画

各種委員会委員長を本委員会の委員とする旨の規程改正を行い、教務委員長、FD推進委員長、学習支援室運営委員長を委員に加えた。

## (4) 各資格関係法令の確認

本学において取得できる資格、受験資格等に関する関係法令（資料 4-1～5）、食品衛生法の一部改正等について法令順守、改善活用の観点から確認をおこなった。

エビデンス集（データ編）の収集

各部署に依頼し、平成 30 年度のエビデンス集（データ編）の収集をおこなった。議場より、ホームページ等の更新が遅延しており古い情報がそのまま掲載されているとの指摘があり、早急に点検、見直しすることが確認された。

また、更新手続き、権限等についても見直すことが了承された。

## (5) 4 年次生の進路に関する評価

ディプロマポリシー、エンロールメントサポート等の視点から本委員会の課題として取り上げ、各開催日時点で確認、評価をおこなった。

## (6) 広報媒体の整備状況の確認

広報の整備、充実を自己点検評価項目の重要事項と位置付け、意見交換した。主に次の 5 点に亘っておこなった。

- ・ オープンキャンパスの情報等のリアルタイムの更新
- ・ （地震、大雨等の）ホームページによる緊急連絡のあり方（緊急時には学生の安心・安全を優先する運用が求められることなどを念頭に）
- ・ ホームページにおける安否確認の機能の装備
- ・ ホームページ更新作業の効率化（学外からの更新作業）
- ・ 学内掲示版とホームページの連携

結果、本件については上位機関に委任すべきとの認識で一致し、委員長からしかる

べき機関に上申することが了承された。

(7) 私立大学等改革総合支援事業について

拡大教授会における学長からの指示に基づき、「私立大学等改革総合支援事業」において改革状況が問われているそれぞれの項目について本委員会で実行に向けての検討を次のとおりすすめた。

- ・ 中教審答申「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて」に基づいた改革を推進する上でのポイントの確認
- ・ 委員会内での推進体制整備（概要は次のとおり。4つの項目を設置。）
  - ① 組織運営の活性化  
久田学長、大澤副学長・学部長、眞下事務局長＋議題に応じて武藤進路支援センター次長を加えるWG方式
  - ② 教育内容・教育方法に関する取組  
教務委員会を中心に情報教育センター長その他の関係者を加える委員会方式
  - ③ 教職員等の質的向上に関する取組  
FD・SD推進委員会に他の関係者を加える委員会方式
  - ④ 高大接続改革の推進  
入試委員会に高大連携室長、その他の関係者を加える委員会方式
- ・ 上記体制による検討内容（経過報告）
  - ① について（報告者：大澤副学長・学部長および仲田総務部長）…IR専門教員の獲得・配置は困難である。その他の課題は実現可能と思う。「学修成果に係る自己評価に関する卒業時のアンケート調査やインタビュー等」については、今年度の暫定措置として大澤委員長において作成し実施した。これについては、看護は未実施であるが、健康栄養、子ども教育については資料4の内容で実施し、集計中である。回収率は90%以上で想定以上の高い回収率であった。次年度からは学科主体で作成することが望まれる旨委員長から発言があった。
  - ② について（報告者：太田教務委員会委員長、小仁教務部長）…アクティブラーニングと事前事後学習については、シラバスの現状把握から取り掛かっている。各学科カリキュラムが職業人養成の資格取得を目指すものであり、アクティブラーニングを実施している授業も多い。そうした点の見える化が必要である。  
また、「学生に講義等のための事前事後学修（資料の下調べ、学生同士のディスカッション、専門家等へのヒアリング等）を促す授業を開講しているか」については、シラバスに実際に記載されているか確認が重要である。これまで整備してきたシラバスの様式やシラバス作成要領をより充実させ、アクティブラーニングや事前事後学習についてシラバスに明記するようにし、更に検討を進める。
  - ③ について（報告者：仲田総務部長）…教員評価については授業評価報告書の意見を踏まえた制度とする。学習評価は評価委員会と相談しながら検討する。  
FD・SDの連携強化を図り、参加率の向上を目指す。授業公開の実施を義務

付ける。SD 委員会、研修への教員の参加を徹底する。「アセスメント・ポリシー」については、総括部分の案を委員長が作成する。細目については各学科において検討をすすめる。

④について（報告者：大澤入試委員長）…高い配点になっており、課題をクリアしたい。本課題については、入試委員会だけでなく各学科でも検討をお願いしたい。次年度の高大連携は子ども教育学科で実現可能だが健康栄養・看護にも検討を要請する。初年次教育等については教務委員会においても検討願いたい。高大連携については具体案件として能勢高校からの提案がある。③以下の「高大接続改革の推進」については、同規模の大学はいずれも他大学の動向を様子見の状況にあり、本学も同様であり進展はない。

(8) 私立大学等経常費補助金の交付申請に係る資料（教育の質に係る客観的指標調査票）への対応について

項目ごとの検討部署（委員会等）を次のとおり指名し、各担当における検討を依頼した。（①～⑤総務部、⑥～⑪教務委員会、⑫学生生活委員会、学生支援センター、⑬教務委員会、⑭FD 推進委員会）その後検討結果を委員会で共有した。その中で、「アセスメントポリシー」については、先の委員会で審議した私立大学等改革総合支援事業⑯においても懸案となり、委員長において案を作成し提案することになっていたことから、資料としてたたき台が提出された。今後学部レベルの項目については、引き続き本委員会で検討し、学科レベル、科目レベルについては各学科等への検討・作成を依頼する方向で進めることとした。また、⑤の教員評価については、次年度の実施に向けて検討中であることが確認された。

## 2 FD 推進委員会

教員の資質の向上及び教育力の強化、学生の基礎学力向上及び専門能力の養成に向けて活動した。

### (1) 活動の充実

定期的に委員会を開催し、特に①授業アンケート、②研修会、③シラバスの改善・充実、④FD 関連情報の収集について議論し、取組みを行った。

### (2) 授業評価システム

アンケートを記名式で実施し、責任ある回答を促した。教員への依頼文にチェック欄を設け、アンケートの目的と趣旨説明の漏れがないようにした。アンケート集計結果をもとに「授業アンケート結果への対応」を作成するようにし、アンケートを授業改善のために利用する方策を検討した。授業アンケートの結果と結果への対応を図書館で公開した。

### (3) 授業公開

全学・横断的な授業公開を行うこととした。健康栄養学科は新任教員、子ども教育

学科は黒澤先生、看護学科は平沢先生が担当し、調理製菓学科は常時公開した。

#### (4) 研修会の実施

平成 31 年 2 月 18 日（月）に京都大学大学院 教育学研究科 服部憲児准教授を招聘し、研修会を開催した。「大学教育の質について」の研修会が行われ、教員 44 名、職員 3 名が参加した。

#### (5) FD・SD 合同研修会の実施

平成 30 年 9 月 11 日（火）に大阪大学 座古勝名誉教授を招聘し、研修会を開催した。「大学におけるハラスメントと対策」の研修会が行われ、教員 52 名、職員 41 名が参加した。

#### (6) シラバスの改善・充実

シラバスの書き方を統一し、学生に分かりやすい内容にするため、シラバス作成要領とチェックリストを作成した。

#### (7) 外部情報の収集・分析

他大学の活動内容の情報を委員の間で共有し、本委員会の活動指針について検討を行った。

#### (8) ティーチングポートフォリオの検討

ティーチングポートフォリオの来年度の実施に向け、様式の検討と勉強会実施に向けた準備を行った。

### 3 SD 推進委員会

「大学事務職員」として、それぞれの職責や職務に応じて必要な知識と技能を修得できるよう取り組み、学長のリーダーシップを支援できるよう、職員力を高めることに努めた。

#### (1) FD・SD 合同研修会

大学職員の基本的な基礎知識を修得するため、FD 推進委員会との合同研修会を開催した。

##### ①第 8 回 発達障がい学生支援講演会

日 時：平成 30 年 7 月 5 日（木） 16 時 30 分～18 時

場 所：本学 本館 2 階 210 教室

講 演：特性理解から自立をめざす支援へ  
学習支援室 榎本 義文

参加者：49 名

##### ②大学におけるハラスメントと対策（FD 委員会の再掲）

講 師：大阪大学名誉教授 座古 勝

参加者：93 名

## (2)SD 研修会

- 1) 経理事務の概要に関し、総務部経理課による研修を3回にわたり実施した。講師は望月総務部次長（経理課長）と中川経理課係長が担当。

①大学の会計について（基本編：12月5日、参加11名）②大学の会計について（実務編：12月25日；参加16名）③私立大学経常費補助金について（1月30日；参加7名）

- 2) 「科学研究費補助金について」

科学研究費補助金獲得に向け、制度の概要や申請書作成について研修を行った。

日 時：平成31年2月15日（金） 15時～16時30分

場 所：本学 4号館6階大講義室

講 演：①「外部資金について～科研費を中心に」総務部長 仲田 昇  
②「科研費申請書の書き方のコツについて」看護学科講師 新增 有加  
③「研究テーマの設定と研究計画の連続性について」

子ども教育学科准教授 黒澤 祐介

参加者：145名（教員77名、職員68名）

- 3) 人事評価研修会

人事考課制度の試行にあたり、組織能力の向上にむけた目標管理の設定や業績行動とその評価方法について、設定基準や評価基準等の共有のための研修を行った。

日 時：平成31年2月26日（火） 13時30分～15時20分

場 所：本学 4号館6階大講義室

講 演：①「学園の方針について」事務局長 眞下 利晴

②「人事考課研修について～振り返り～」講師 中堂園 哲志 氏

参加者：28名（教員4名、職員24名）

## (3)キャリア支援研修

本学の課題発見・解決を見据えつつ、キャリアアップすることを支援するため、次のことを行った。

### 【大学行政管理学会等への参加支援】

- ①大学行政管理学会 「2018年度第22回 定期総会・研究集会の参加」

テーマ：「便利なスマホアプリを考える、これからの教育」「大学の国際化とAI時代」

日 時：平成30年9月1日（土）～2日（日）

場 所：桜美林大学

参加者：1名

- ②大学行政管理学会 「大学改革研究会の参加」

テーマ：「みんなの武器を共有しよう」

日 時：平成30年12月16日（日）

場 所：京都文教大学

参加者：1名

#### 【自己研鑽への支援】

大学職員としての知識を深めるため4号館2階フロアーに設けた「SD関係書籍コーナー」を引き続き設置し、自己研鑽への支援を行った。

## vii 事務部門等

### 1 総務部

#### (1) 大学ガバナンス改革の推進

学長のリーダーシップの支援体制の強化を図るため、引き続き諸制度や関係規程を見直し、理事会等に諮り整備をした。

- ① 青山幼稚園の保育料改定に伴う青山幼稚園園則の一部改正を行った。
- ② 青山幼稚園職員就業規則を制定し、茨木労働基準監督署に届出を行った。これに伴い、学園就業規則（新稲地区）の一部改正と淀川労働基準監督署への届出を行うとともに、各地区の過半数代表者の選出ガイドラインを整備し、青山幼稚園の過半数代表者が選出された。
- ③ 短期大学部について、2020年度入試からの学生募集停止に係る諸資料を整備のうえ関係会議に諮り、理事会決議に基づき、学生募集停止の文部科学省への届出や学内外への周知を行った。

#### (2) 大学自己点検評価委員会及び短期大学部自己評価委員会の支援

- ① 大学自己点検評価委員会及び短期大学部自己評価委員会が行う自己点検について、自己点検評価室（担当・総務部）を中心に、資料の取り纏めなどの支援を実施した。

#### (3) 同窓会活性化の支援

短期大学部の同窓会と大学の同窓会の合併により平成30年度に新たに発足した「青櫻會」の活動活性化に向け、引き続き支援に努めた。

#### (4) 経費の削減

- ① 中期計画に基づく事業計画とそれに伴う予算編成について、全部門長、担当者に向けた説明会を実施し、効率的・効果的な予算管理や経費執行の促進に努めた。
- ② 予算の来期予定及び執行状況を把握するため、期中において全部門にヒアリングを実施した。

#### (5) 資産管理の充実

固定資産及び物品管理規程に基づき、引き続き固定資産管理の適正化に努めた。

#### (6) 教育後援会・保護者懇談会関係



教育後援会総会が、平成 30 年 5 月 26 日に開催された。平成 29 年度会長挨拶、平成 29 年度決算報告、平成 30 年度役員選出、平成 30 年度会長挨拶、平成 31 年度予算案審議の議事を執り行った。また、教育後援会終了後、保護者懇談会が開催され、開催の準備等の事務を行った。

## 2 教務部

### (1) 教務課

#### ① カリキュラムの改善

短期大学部調理製菓学科においては、学びの順序性に重きを置き、開講期の検討を行う予定であったが、学生募集停止との決定に基づき、カリキュラムが複数となるリスクを避け、見直しは行わなかった。また、消費者サイドに立った科目として新規に導入した「消費者行動論」が予定通り 30 年度後期より開講された。初年度は受講者数も限定的であったが、科目の特性を周知し、次年度に向けて受講者数の増加につなげたい。

なお、栄養教諭養成課程のうち「道德・特別活動論」は、予定通りそれぞれの分野特性に鑑み、独立した 2 科目に分割を行った。また、「フード・サイエンティスト」の指定科目の見直しについては、予定通り実施し、総計 20 単位を取得することで基礎資格を得られるように改正を行った。

#### ② 教養教育の充実

教養科目については、学生が求める科目開設となっているのか、また専門的職業人に求められる教養を提供できる科目構成となっているかについては、数年度に亘る受講者数推移や授業アンケートなどによる、総合的な判断が求められるところであり、次年度に向けて、更に検討を進める。

#### ③ 授業の改善

授業アンケート結果に基づき、各教員が授業改善を実施する方策については、教員評価にも一部連動することでもある。評価制度導入の目途も立ったことから、制度導入とともに整備を図ることにしたい。

#### ④ 学修成果の把握

授業アンケートにおける質問項目の検討は行ったが、学生の理解度を詳細に把握するような項目を新設するには至らなかった。次年度に向けての課題と致したい。

#### ⑤ 学修環境の整備

アクティブラーニングにたえる教室を設けることはできなかったが、「授業の視覚化」「授業の情報化」に向けての環境整備の一環として、電子黒板の導入は完了した。今後とも、要求される教育環境の整備に取り組んでいきたい。

#### ⑥ 教育職員免許法等改正に伴う再課程認定への対応

教育職員免許法・施行規則および課程認定基準の見直しに伴う教員養成課程の再課程認定申請については、無事認可を得られ、本学の教員養成課程は維持され

ることとなった。新課程にて求められる基準をクリアするとともに、なお一層の課程の充実に努めることとしたい。

#### ⑦看護コアカリキュラムの導入への対応

看護学科は平成 31 年度に完成年次を迎えることから、平成 30 年度においては「看護コアカリキュラム導入」に先立ち、基礎教育科目及び専門基礎科目の充実・改善に努めた。基礎教育科目等の改正については、無事認可を得たことから、次年度は「看護コアカリキュラム導入」に向けて、本格的に検討を進めることとする。

### (2) 高大連携室

#### ①大阪府立能勢高校との連携

大阪府立能勢高校との高大連携の定例の協議が行われた。2019 年度に子ども教育学科の講義を大学で受けることが決定した。

2019 年度の能勢高校の第 2 学年生の「子どもの発達と保育」2 単位の授業の一部を大阪青山大学と連携して行う。2019 年度からは、保育と福祉を選択している生徒約 10 名に保育及び福祉について理論的な内容を大学の講義で受講する。保育現場や福祉の現場での体験の前後で、大学教員の講義を受けさせることが決定された。

#### ②大学での体験授業

・大阪府立茨木西高等学校

実施日：平成 30 年 7 月 12 日（木）

内容：「子ども教育学科の体験授業」

講師：植田一夫、萩原憲二

### 3 教職支援室

#### (1) 教職支援室の職務

①私立の保育所・幼稚園・施設関係への就職希望の学生に対して、学生一人ひとりの個性や能力、ニーズに応じたよりよい就職活動ができるよう、子ども教育学科と連携を図りながら就職支援を行った。

②公立の保育所・幼稚園・小学校・施設関係への就職希望の学生に対して、子ども教育学科や健康栄養学科と連携をとりながら、採用試験合格に向けての支援を行った。

③将来の進路や就職を見据え、保育所・幼稚園・小学校・施設での保育実習・教育実習などの実習の一層の充実に努めた。また、実習評価票の観点基準について検討し、改善した。

④子育て支援室の充実に向け、参加者のニーズに応じた支援・補助に努めた。

#### (2) 職務達成のための取り組み

①就職先の確保・情報提供

私立の保育所・幼稚園・施設関係について、新規開拓先も含めて求人票を発送した。返送された求人票や別途独自に送付されてきた求人票はファイルに整理し、学生が見やすいように掲示するなど、学科の就職担当者との連携を図りながら学生に多くの求人先を提供できるようにした。

また、公立の保育士や教員などを志望する学生については、都道府県・政令指定都市・市町村の採用試験受験案内の収集・整理を進め、教職支援室にも掲示するなどタイムリーな情報提供に努めるとともに、採用試験受験にむけて相談・指導を行った。

②就職関連事務

各求人先との連絡調整、学生への情報提供・アドバイスに努めるとともに、「保育・教育者を目指して」の冊子作成を行った。また、保育士資格や教員免許の取得申請事務も行った。(申請者数：小学校教諭一種免許状 30 名、幼稚園教諭一種免許状 65 名、保育士資格 52 名、認定ベビーシッター資格 3 名)

③教員の「採用試験対策講座」に関わる補助

公立の保育士や幼稚園教諭、小学校教諭、施設職員になるためには、各自治体が実施する採用試験に合格する必要がある。それに向け専任教員が次のような対策講座を実施しているが、その補助・サポートに当たった。

- ・各教育委員会主催の「教師養成塾」の案内・受験に関する指導
- ・保育所、幼稚園、小学校などでのボランティア活動に関する紹介・指導
- ・小学校教員採用試験における大学推薦に関する指導
- ・採用試験に関する個別相談・指導
- ・教職教養、一般教養、専門科目、一般知能などの筆記試験の指導、模擬試験の実施・事後指導、エントリーシートの記入指導、論作文の書き方指導、面接・場面指導、模擬授業・保育の指導
- ・講師登録に関する指導

【教員・公務員試験対策講座概要及び受講者数】

- ・教職教養対策講座：平成 30 年 10 月 25 日～12 月 15 日 全 20 コマ  
受講人数：24 名
- ・一般教養対策講座：平成 31 年 3 月 14 日～3 月 28 日 全 21 コマ  
受講人数：30 名
- ・一般知能対策講座：平成 30 年 10 月 18 日～12 月 22 日 全 16 コマ  
受講人数：28 名
- ・保育士専門対策講座：平成 31 年 3 月 12 日～4 月 11 日 全 4 コマ  
受講人数：8 名
- ・幼稚園専門対策講座：平成 31 年 3 月 26 日～3 月 29 日 全 4 コマ  
受講人数：8 名

【就職状況】

私立関係

	就職希望者数	就職内定者数	就職率
--	--------	--------	-----

幼稚園	8名	8名	100%
保育所	13名	13名	100%
施設	2名	2名	100%
認定こども園	8名	8名	100%
合計	31名	31名	100%

#### 公立関係

	就職希望者数	就職内定者数			就職率
		合格者	講師	合計	
小学校	12名	1名	11名	12名	100%
幼保	3名	3名	—	3名	100%
合計	15名	4名	11名	15名	100%

#### ④保育実習・教育実習などの実習支援・事務

子ども教育学科では2年次から4年次前期にかけて、保育実習（施設実習）・幼稚園実習・小学校実習（介護等体験実習）を9回実施している。それらの実習が円滑に実施できるよう、実習委員会に出席するなど実習担当教員との連携を図り、次のような実習支援・事務を行った。

- ・実習先との連絡調整・書類準備
- ・次年度の実習依頼
- ・実習日誌や実習資料の印刷・配付
- ・細菌検査や健康診断の業者との打ち合わせ等

#### ⑤子育て支援室の補助

原則月曜日及び木曜日の午前中、研究や学修の向上にむけ、子育て支援室に来室する保護者と幼児の補助・監督・支援に当たった。また、地域に開かれた大学としての評価も高めるよう努めた。

#### ⑥図書等の蔵書管理・貸出業務

教職支援室に、公立の採用試験合格に向けての参考書や問題集などを整備し、学生の自主的な学修場所として提供している。それらの図書は学生の希望により貸出しているが、その貸出業務や蔵書の管理を行った。

### 3) 今後の課題

- ・インターンシップ制度とボランティア制度の導入について

学生の進路意識を高め、進路決定の一助とするためにも、保育所・幼稚園・小学校などでのインターンシップ制度やボランティア制度等を活用し、実施した。これらの制度の導入は検討課題である。

- ・教職支援課の体制整備について

現在、教職支援室のスタッフは、子ども教育学科の事務も兼任している。子

ども教育学科の事務については、実習・就職・子育て支援室サポートなど多岐にわたる。子ども教育学科事務としての業務に専念できるよう体制及び業務内容の検討をする必要がある。

#### 4 学生支援センター

##### (1) 学生課

###### ○学生指導・厚生、行事

学生の満足度向上を図るため、学生の願いや実態を的確に把握するとともに、課題に丁寧且つ迅速に対応し、学生サービスに努めた。

###### ① 通学バス

学生の利便性を第一に考え、適宜乗車人数調査を実施するなど、バス運行会社との連絡を密にし、随時バス運行時刻の変更を図る等、バスの効率的な運航に努めた。

###### ② 駐輪場管理

- ・年々50CC以上の大型車の希望が増加している傾向を踏まえ、できる限り学生のニーズに応えられるよう、区割りを工夫して大型車の駐輪が可能なスペースを増やした。
- ・オリエンテーションでの指導や駐輪場内の定期的な巡回等を通して、学生の交通安全や駐輪マナーの意識の向上に努めた。

###### ③ 定期健康診断

- ・予定どおり、4月7日(土)に全学科全学年の健康診断を実施した。  
検査で異常が見つかった学生には担任・チューターを通じて連絡した。また保護者には検査結果を郵送で知らせた。

###### ④ 学生教育研究災害傷害保険

- ・オリエンテーションを利用し、学生に保険制度について周知した。  
保健室看護師や教員との連携を図り、適宜情報提供を受け、保険請求の遺漏がないように努めた。
- ・1年間で、10件(大学8、短大2)の保険請求があった。

###### ⑤ 学生相談室

- ・昨年度と同様、学生が利用し易いよう、平日の火曜日と木曜日にカウンセラーを配置した。
- ・より多くの学生に、学生相談室の存在を認知してもらい、気軽に訪問してもらえるよう、学生相談室主催で「アロマキャンドル作り」のイベントを実施した。
- ・来年度から火曜、水曜、木曜日の週3日体制でカウンセラーを配置し、より多くの学生の相談に迅速に対応できるようにした。

###### ⑥ 保健室

- ・月～金曜日に保健師を配置した。保健室利用者の延人数は、学生：780人、教職員：52人、合計：832人で、前年比、学生：195人増、教職員：19人増、

合計:214人増となった。これは、学生数が全体で約60名増加したことや、学生相談室と連携して身体・精神的相談についての学生対応強化を図ったことで、何度も保健室を訪ねる学生が増えたことが要因と考える。

#### ⑦ 課外活動(自治会、クラブ・サークル)の支援

##### <自治会(学青会)活動>

###### ・大阪青山スポーツフェスティバル(運動会)

5月17日(木)に実施した。全体で約64%の学生の参加に留まった。

学科、学年によっては、授業や実習の関係で運動会に出席ができないケースが目立つ状況にあり、全員参加を旨として実施してきたスポーツフェスを、従前どおりに継続して実施することは難しいとの判断に至った。

次年度からは、各学科主催で「新入生歓迎会」を任意で開催することになった。

###### ・大学祭

10月28日(日)に、大学祭を開催した。76%の学生が、大学祭か前夜祭のどちらかに参加した。

今回は、お笑い芸人や歌手などのゲストを呼ぶ事に代えて、「男装女装コンテスト」や「ラムネ早飲み競争」など、自主企画のイベントを多く取り入れ、好評を得た。

##### <クラブ・サークル活動>

- ・4月11日(水)部長会議を開催し、活動計画・名簿の提出について説明し、前期リズム室の使用について話し合った。
- ・5月23日(水)クラブ・サークル活動補助金申請について説明した。
- ・10月3日(水)後期のクラブ・サークル活動について話し合った。
- ・12月5日(水)活動報告書と補助金清算書の提出について説明した。
- ・上記の他、全11回クラブ・サークル部長会やミーティングを開催して活動を支援した。

#### ⑧ロッカー室

学生に個人用ロッカーを1年間貸与し、自己管理をさせた。利用状況については昨年度より良好であった。

#### ⑨食堂

昨年度より学生食堂業を委託している日米クックと、食堂運営の改善に向けて協議を重ねた。

特に、中小規模の私立大学における学生食堂の委託運営は、厳しい営業環境にあり、他大学に於いては業者の撤退が珍しくない、という状況の中、今後も学生の満足度アップの為、粘り強く交渉を続けていく。

#### ⑩学生生活意識・実態調査

- ・9月25日(月)～10月26日(金)の期間で、「平成30年度学生生活意識・実態調査」を実施した。回収率は、82%だった。
- ・平成31年1月に、教員へは教授会にて、職員へは事務連絡会にて「調査結果報告書」を提示し、調査結果報告を行った。

- ・2月 Web 上で、学生に結果を公開した。
- ・2月 Web 上で教職員に報告書を公開した。
- ・アンケート結果から、「職員の対応」の中で明らかになった課題について課内で共有するとともに、日常業務の改善に努めた。

#### ⑪学生と学長との懇談会

「学生と学長との懇談会」を、平成31年2月8日(金)に実施した。学生は学青会役員9名が参加した。

「平成30年度学生生活意識・実態調査」のアンケート結果も踏まえ、施設の改善要望、授業や教職員に関する要望、学生生活全般について等々、種々の事項について活発なディスカッションが行われた。

内容を検討し、できる限り学生の要望に応えられるよう努力することとした。

#### ○奨学金

学修面で優秀な学生に対して、以下に掲げるような奨学金の貸与と給付を行った。

##### ①日本学生支援機構奨学金

大学の貸与率 56.0% (大学 57.8%、短期大学部 41.5%) と日本学生支援機構が算出している想定貸与率 38.5% と比較すると高い。

奨学金を終了する学生並びに継続する学生に対する説明会を実施し、奨学金の返還や借り過ぎ防止について周知するとともに、手続きを進めた。

##### ②塩川学修奨励金

健康栄養学科 9 人、子ども教育学科 10 人、看護学科 11 人、調理製菓学科 3 人、に支給した。

##### ③入学試験成績優秀者給付奨学金

子ども教育学科 3 人、看護学科 7 人、調理製菓学科 3 人、に支給した。

##### ④同窓生家族入学金支援制度

12 人に支給した。

#### ○指定強化クラブ

女子ソフトボール部が昨年度同様に一部リーグ所属となり、全国大会に3年連続出場を果たした。年間を通じて、北摂キャンパスでの練習、遠征合宿、招待試合、遠征試合等のバスの手配や、予算の適正管理に適宜対応した。

#### (2)地域連携課

高度な専門知識及び種々の教育的資産を有する地域の大学として、これらの知的財産を地域に公開し、地域社会における課題解決に取り組み、地域の皆様に本学が「地域に欠かせない存在」と認識してもらえよう、また学生が「社会に貢献できる人材」として成長できるよう、下記のような「公開講座」や「地域活動に積極的に取り組んだ。

○公開講座

①公開講座の開催

下表のとおり、本学主の公開講座に地元団体との共催講座も含めて 21 講座を開催し、包括協定を締結している近隣 3 市（箕面、池田、川西）の市民を中心に、応募者数 663 名、参加者数 605 名を得た。このうち約 60 名は新規応募者であった。

(単位:名)

	講座名		応募	参加	
	担当講師	実施日			
本学主催公開講座	①	A-1 古典文学にみる日本の夏	77	64	
		小倉 嘉夫(子ども教育学科准教授)			H30.08.04
	②	A-2 親子で元気っず体操	24	14	
		村田トオル(子ども教育学科准教授)			H30.09.08
	③	A-3 レゴブロックでお話作り	14	10	
		萩原 憲二(子ども教育学科教授)			H30.09.22
	④	A-4 一日茶道教室	15	12	
		松井 豊(非常勤講師)			H30.09.28
	⑤	A-5 夏休み特別講座 親子理科実験教室	25	25	
		萩原 憲二(子ども教育学科教授)			H30.08.06
	⑥	A-6 夏休み特別講座 フクロウのペリット解剖	20	20	
		佐藤 寿哲(看護学科講師)			H30.08.21
	⑦	B-1 笑い与健康	35	47	
		古谷 昭雄(看護学科教授)			H30.10.28
北川 佐恵子(保健室保健師)					
⑧	B-2 和菓子から日本文化を考える	33	32		
	山口 富蔵(元非常勤講師)			H30.11.18	
⑨	B-3 簡単「俳画」教室	34	33		
	山下 紀代美(非常勤講師)			H30.11.20	
本学主催公開講座	⑩	B-4 大阪青山歴史文学博物館「幕末維新英雄の書」展鑑賞と解説	25	23	
		小倉 嘉夫(博物館主任学芸員)			H30.12.05
	⑪	B-5 料理教室「ペアでクッキング」	8	6	
		國末 直宏(調理製菓学科講師)			H31.01.26
	⑫	B-6 ビタミンのことをもっとよく知ろう	37	26	
		榎原 周平(健康栄養学科准教授)			H31.01.31
	⑬	B-7 古典文学に見る日本の冬	46	34	
		小倉 嘉夫(子ども教育学科准教授)			H31.02.07
	⑭	B-8 食パン+洋菓子作り講座	22	14	
		佐々木 信治(調理製菓学科教授)			H31.02.14
		藪口 恭巨(調理製菓学科准教授)			
	本学主催公開講座合計 (A)			415	360



共 催 公 開 講 座	①	メイプル文化財団	12	11	
		60歳からはじめる男の料理 ①			
		高山 信行 (調理製菓学科准教授)	H30.11.10		
	②	メイプル文化財団	12	11	
		60歳からはじめる男の料理 ②			
		高山 信行 (調理製菓学科准教授)	H30.11.24		
	③	メイプル文化財団	12	11	
		60歳からはじめる男の料理 ③			
		高山 信行 (調理製菓学科准教授)	H30.12.08		
	④	川西市公営住宅課	60	63	
		介護予防脳体操と認知症について			
		西地 令子 (看護学科教授)	H30.11.05		
	⑤	池田市中央公民館	64	58	
		共に伸ばそう健康寿命!			
	工藤 節美 (看護学科教授)	H30.08.22			
⑥	池田市中央公民館	58	62		
	クリスマスツリーに雪をふらせよう				
	萩原 憲二 (子ども教育学科教授)	H30.12.09			
⑦	箕面ヒューマンズプラザ	30	29		
	親子で元気っず体操				
	村田トオル (子ども教育学科准教授)	H31.02.09			
共催公開講座合計 (B)			248	245	
総 合 計 (A+B)			663	605	

②公開講座の内容については、地元自治体が標榜している「健康で豊かな暮らしができるまちづくり」「安心して子育てができるまちづくり」の一助となることを念頭において、講座づくりに取り組んだ。また、公開講座実施の際に行っているアンケート調査を参考にしたり、箕面、池田、川西の3市を中心に、各市や各種団体等の担当者と協議したりするなど、地域や市民の皆さんのニーズや意見を広く取り入れるよう心掛けた。

③各種ジャンルや幅広い世代の多様なニーズに応えられるよう、講師として本学全学科の教員の協力を得たほか、元非常勤講師を含め外部講師も招請した。

④昨年度まで「大学コンソーシアム大阪」が主催し、本学も講座を提供していた「中学生サマーセミナー」が、今年度から取り止めとなった。そこで、本学独自に「夏休み特別講座」を実施し、保護者も含め小学生を中心に、子ども向けの講座を提供した。

⑤大学祭のイベントの一つとして当日に公開講座を実施し、受講者に大学祭も楽しんでもらうことで、本学のことを広く知ってもらう機会を提供した。

大学祭で、学生が展示や実演を行っているイベントを、学生自身が講師となる公開講座として実施し、学生の学修に繋げる計画は、残念ながら公開講座まで至らず、イベントの紹介にとどまった。

## ○地域活動

### ①女子ソフトボール部学生によるボランティア活動の実施

毎週木曜日の朝、女子ソフトボール部学生が駅周辺の清掃活動を実施した。この清掃活動は7年継続して実施しており、市民の皆さんにも認知されるようになってきた。作業中に市民の皆さんから声を掛けていただくことも多くなり、学生の大きな励みになっている。

また、箕面市と箕面市消防本部の要請を受けて、平成29年12月に発足した学生消防隊「MATOY(マトイ)」の活動も継続して行った。年頭の出初式や1月17日の防災訓練への出動をはじめ、救命講習会への参加、箕面駅前でのちらし配りなど、消防団のPR活動や火災予防の啓発活動等に従事した。

### ②ガンバ大阪連携事業

学生自らが連携事業の内容を計画、立案して実施する、「ガンバ大阪連携プロジェクト学生チーム」を結成。健康栄養学科を中心に全学科から40名以上の学生が参加し、健康栄養学科3年次生のチームリーダーを中心にミーティングを重ね検討した結果、

ア.食物繊維たっぷりの「食べるあったかスープ」の販売、イ.サッカーボールを模したメロンパン「ガンバロンパン」の販売、ウ.本学生が日頃学修していることやガンバ大阪に関することを問題にした「クイズコーナー」の運営の3事業を、公式戦ホーム最終戦の日(H30.11.24(土))に、スタジアム前の特設テントで実施した。

当日、30名以上の学生が参加し、早朝より健康栄養学科の学生がスープ作りを、調理製菓学科の学生がメロンパン作りを進める一方、現場ではクイズコーナーや特設テント内の準備を行い、11時のスタートに備えた。

スタート直後から来店するサポーターで長蛇の列となり、メロンパンは約30分で用意した139個が完売となり、スープも12時30分頃には160杯が売り切れた。

また、クイズコーナーも子どもから大人まで、多くの方に楽しんでいただいた。

後日、学生チームではメンバー内でアンケート調査を実施し、その結果も踏まえて反省会を行い、次回以降の連携事業実施へと繋げることにした。

学生チームの事業とは別に、慶應義塾大学、順天堂大学の教員が中心となって活動している、「TeamBONE」と連携し、ガンバ大阪公式戦開幕日(H31.23(土))に、ガンバとの連携事業として「骨密度測定」イベントを、スタジアム前の特設テントで実施し、これに、看護学科の学生4名が参加した。当日は、寒くて強風が吹く荒天であったにもかかわらず、80名以上のサポーターが列をなした。

③各自治体や団体主催のイベント等への協力参加や、市民講座等への講師派遣等の活動を、以下のとおり積極的に実施した。

#### ア 給食材料の放射性物質検査（継続事業）

箕面市教育委員会から依頼を受け、箕面市から無償貸与された放射性物質検査機器を使って、幼・保育園給食材料の放射性物質の検査を実施した。本学教員と学生が、毎月2回程度定期的に持ち込まれる給食材料の検査を行い、検査結果を箕面市教育委

員会へ報告した。

イ 講演・講師派遣等の協力

- a 箕面市からの次の内容の協力要請に、教職員や学生が応じた。
- ・平成 30 年 7 月、教員と学生が「箕面市生涯学習教室 シニア塾」の料理教室について、本学の実習施設にて講師を務めた。
  - ・平成 30 年 10 月に教員が「みのおアイデアメニューコンテスト」の審査委員長を務めた。また、11 月には同コンテストの表彰式で総評をコメントした。
  - ・教員が「箕面市立公民館運営審議会」及び「生涯学習センター運営審議会」の委員に、昨年度から継続して就任した。
  - ・職員が「メイプル文化財団理事」に、昨年度から継続して就任した。
  - ・職員が「メイプル文化財団企画運営委員」に、昨年度から継続して就任した。
- b 川西市からの次の内容の協力要請に、教職員や学生が応じた。
- ・教員が「川西市健康づくり推進協議会」の委員に、昨年度から継続して就任した。
- c 池田市からの次の内容の協力要請に、教職員や学生が応じた。
- ・教員が「池田市図書館協議会」の委員に、昨年度から継続して就任した。
  - ・教育委員会婦人学級「主婦の勉強室」の講師として 1 名の教員が、平成 30 年 12 月に、市役所で講演を行った。80 名を超える受講者が有り、好評を博した。

ウ その他の活動

- a 能勢町商工会の依頼による新商品の開発
- 能勢町の夏まつりで使用するため、能勢町産のブルーベリーを使った新商品(加工品)開発の依頼があり、調理製菓学科製菓コースの教員が、地域の加工業者や池田保健所等と協議や試作を重ね、かき氷のシロップの完成にいたった。
- H30.8.25(土)のまつり当日は、調理製菓学科の学生 5 名も協力参加して、かき氷の屋台を運営。ブルーベリーのシロップは好評を博した。
- 能勢町商工会では、ブルーベリーの収穫高増を踏むためにも、その他の加工品の開発を視野に入れる予定とのことであった。
- b 箕面青年会議所主催イベントへの会場提供
- 箕面青年会議所主催のイベント「ギネスブック世界記録に挑戦」に、会場を提供した。
- イベント当日(H30.11.3(土))は 100 名以上の市民の皆さんが参加し、「もみじ」の折り紙 1,000 枚以上を折って、見事世界記録を達成した。
- c 能勢電「一の鳥居」駅前活性化に協力
- 地元自治会バリアフリー化委員会や川西市等からの要請を受け、一の鳥居駅の利用者を増やすためのイベント開催に協力した。
- ・能勢電とも協力して、「能勢電ハイキング」のスタート地点、ゴール地点として、本学北摂グラウンドを 7 月と 9 月に提供した。
  - ・女子ソフトボール部と監督が中心となって、12 月に「ソフトボール講習会」を、本学北摂グラウンドと川西市立牧野台小学校グラウンドを借りて開催した。2 日間にお

たり近畿圏の高校や中学校、さらに特別参加の韓国の高校も加え、30校以上のソフトボールチーム、延べ約700人が参加する大きなスポーツイベントで、川西市長も視察に来られた。

#### ④学生の参加

上記の地域活動には、できるだけ多くの学生が参加し、学内の授業では得られない社会との触れ合いや実務を経験してもらえるよう努めた。

- ア 公開講座 21 講座のうち、7 講座に 26 名の学生がサポート役として携わった。
- イ 「箕面市生涯学習教室 シニア塾」の料理教室に、学生 6 名もサポート役で参加した。
- ウ 学生も参加したその他の各種イベントや事業等
  - a 学生が、箕面市立の子育て支援施設で行われたイベントにボランティア参加し、運営に協力した。また、市立小学校で実施された、放課後の子ども見守り活動にも、ボランティアで参加した。
  - b 箕面市青年会議所主催の「わんぱく相撲」の運営の補助に、学生 2 名が参加した。
  - c 箕面市立病院「医療フェスタ」への協力  
箕面市の依頼により、平成 30 年 5 月に健康栄養学科の教職員と学生が標記イベントに協力参加し、市民病院で SAT システムを使った食事相談を実施した。
  - d 「箕面まつり」への参加（30 年 7 月）  
BIGBAND サークルが“ステージ”へ、女子ソフトボール部が“パレード”へ、また、パレードのための箕面駅前交通整理業務に学生がボランティア参加を予定していたが、台風接近の為「箕面まつり」は中止となった。
  - e 「化学の日子ども科学実験ショー」への協力  
一般社団法人日本化学工業会主催の標記イベントに、平成 30 年 10 月に子ども教育学科の教員と学生が協力参加し、主として小学生を対象に簡単な科学実験の体験コーナーを運営した。
  - f 「大阪市食育キャンペーン」への協力  
大阪市の依頼により、平成 30 年 7 月に健康栄養学科の教職員と学生 10 名が標記イベントに協力参加し、イオンモール鶴見緑地店の特設コーナーで、SAT システムを使った食事相談を実施した。
  - g 箕面市食育大会」への協力  
箕面市の依頼により、平成 30 年 11 月に健康栄養学科の教員と学生 10 名が標記イベントに協力参加し、メイプルホールの特設コーナーで SAT システムを使った食事相談を実施した。
  - h 「健康長寿フォーラム」への協力  
箕面市の依頼により、平成 31 年 1 月に健康栄養学科の教員と学生 10 名が標記イベントに協力参加し、メイプルホールの特設コーナーで SAT システムを使った食事相談を実施した。  
また、同様に協力参加していた企業とも連携し、学生も協力してイベント進行に従事した。

i 「川西市食育フェスタ」への協力

川西市の依頼により、平成30年12月に健康栄養学科の教員と学生10名が標記イベントに協力参加し、「アステ川西」の特設コーナーでSATシステムを使った食事相談を実施した。

5 進路支援センター 就職課

(1)平成30年度 就職について

①就職（全般）

「一般企業就職希望者の就職率100%」を目標に学生に進路支援を実施した。

就職内定の状況は下記表の通り大学は前年比12.4ポイントアップ、短大は前年比1.6ポイントダウンとなった。就職初年度の看護学科は98.6%の就職率となった。

②就職状況

ア 大学

単位：人、パーセント

＜学 科	在籍者	就職希望者	内定者数	内定率	前年内定率	前年差
健康栄養学科	72	64	64	100.0	89.0	↑11.0
子ども教育学科	75	70	69	98.6	84.2	↑14.4
看護学科	76	72	71	98.6	—	—
合 計	223	206	204	99.0	86.6	↑12.4

[在籍者数と就職希望者数の差]

- ・健康栄養学科 8名（進学2名、留年3名、就活なし3名）
- ・子ども教育学科 5名（就活なし2名、卒業延期3名）
- ・看護学科 4名（進学1名、留年3名）

イ 短大

(単位：人、パーセント)

学 科	在籍者数	就職希望者	内定者	内定率	前年内定率	前年差
調理コース	33	32	32	100.0	100.0	0
製菓コース	34	29	28	96.6	100.0	↓3.4
合 計	67	61	60	98.4	100.0	↓1.6

[在籍者数と就職希望者数の差]

- ・調理コース 1名（進学1名）
- ・製菓コース 5名（留年1名、就職なし3名、退学1名）

(2)目標達成のための施策

①企業開拓

- ・大学職員、委託企業担当の2名体制で主に関西圏企業を訪問した。
- ・今年度新規企業求人128件より6名が内定を獲得した。

(単位：件、パーセント)

	訪問件数	前年	前年比 (%)	獲得求人件数
既存企業	324	190	170.6	221
新規企業	506	336	150.6	128
合計	830	526	157.8	349

ア 既存企業

- a 定期的訪問で各企業人事担当者との関係構築を強化できた。
- b 定期的、計画的訪問で求人票を取得できた。
- c 学内業界研究会、及び学内企業説明会の招聘、説明会を開催した。
- d 広域企業（東京本社、その他）4社を訪問した。

イ 新規企業

- a 関西圏企業、病院、広域企業のリストアップ、並びに計画的訪問をした。
- b 学内業界研究会、及び企業説明会への招聘を行った。

②進路支援

ア 個別相談

- ・キャリアカウンセラー2名による学生相談、受験対策を行った。

イ 学内支援セミナー

- a 各学科に応じた企業の学内業界研究会、及び企業説明会を実施した。
- b OB・OG 懇談会
  - ・卒業生による講演型懇談会、座談型懇談会を実施した。
- c キャリアコンサルタントによるセミナーを各学科の要望に沿って実施した。
- d 外部講師セミナーを各学科の要望に沿って実施した。
- e 他大学との合同セミナー（グループディスカッション対策）に参加した。

《大学》

- ・1年次生

	日時	対象	出席率	内容
前期	平成30年5月22日(水)	N	94%	キャリアデザインとは
	平成30年5月30日(水)	H	82%	キャリアデザインとは
	平成30年6月13日(水)	H	64%	自己紹介をしてみよう
	平成30年7月17日(火)	N	99%	実習前マナー研修
後期	平成30年11月7日(水)	H	71%	正式書類の書き方
	平成30年11月14日(水)	H	56%	コミュニケーション力

・2年次生

前期	日時	対象	出席率	内容
	平成30年6月22日(金)	H	51%	業界研究*
	平成30年7月6日(金)	H	0%	文章が書ける！！

\* [業界研究参加企業]

・医療法人 医誠会      ・社会福祉法人 優喜会

後期	日時	対象	出席率	内容
	平成30年12月7日(金)	H	34%	OBOG懇談会 *
	平成30年12月14日(金)	H	36%	就活のマナー
	平成31年1月11日(金)	H	21%	どんな文章でも書ける
	平成31年2月6日(水)	H	7%	他大学合同インターンシップ
	平成31年2月13日(水)	H	3%	他大学合同8時間ロード

\* [OBOG 懇談会参加企業、施設]

・医療法人吉栄会 吉栄会病院      ・社会福祉法人優喜会 フローラル

・3年次生

前期	日時	対象	出席率	内容
	平成30年5月11日(金)	N	43%	文章の書き方
	平成30年6月5日(火)	H	65%	マイナビ登録・キャリアスUC活用
	平成30年6月8日(金)	H	36%	マイナビ登録
	平成30年6月15日(金)	N	30%	自己分析・価値観を知る
	平成30年6月19日(火)	H	64%	インターンシップについて
平成30年7月3日(火)	H	68%	企業・業界研究	
後期	平成30年11月14日(水)	P	60%	困ったらどうする？
	平成30年11月21日(水)	P	43%	就活のマナー
	平成30年11月28日(水)	P	0%	一般企業の就活とは
	平成30年11月30日(金)	H	42%	OB・OG懇談会 *
	平成30年12月4日(火)	H	54%	落ちない就活 その①
	平成30年12月18日(火)	H	19%	落ちない就活 その②
後期	平成31年1月12日(土)	H	3%	9大学合同グループディスカッション
	平成31年1月15日(火)	H	37%	落ちない就活 その③
	平成31年1月22日(火)	H	36%	落ちない就活 その④
	平成31年2月13日(水)	H	4%	他大学合同8時間ディスカッション

	平成 31 年 2 月 18 日(月)	N	85%	履歴書の書き方、自己 P R ・ 志望動機
	平成 31 年 3 月 7 日(木)	H ・ P	47%	合同企業説明会 ・ 交流会

\* [OBOG 懇談会 参加企業、施設]

- ・ 徳洲会グループ
- ・ 社会福祉法人あおば福祉会 箕面
- ・ 医療法人 医誠会
- ・ シップヘルスケアフード株式会社
- ・ 株式会社ロックフィールド
- ・ 株式会社ケアーズ
- ・ 株式会社宝食品

\* [学内企業説明会 参加企業、施設]

(平成 31 年 3 月 7 日)

- ・ 医療法人 吉栄会 吉栄会病院
- ・ 医療法人 医誠会
- ・ 社会福祉法人 みおつくし福祉会
- ・ 医療法人 西尾会
- ・ 社会福祉法人 あおば福祉会
- ・ 株式会社スギ薬局
- ・ 株式会社ポオトデリカトオカツ
- ・ リボン食品株式会社
- ・ オリジン東秀株式会社
- ・ 株式会社日本サンガリアベバレッジカンパニー
- ・ グリーンホスピタリティフードマネージメント株式会社

・ 4 年次生

前期	日時	対象	出席率	内容
	平成 30 年 4 月 10 日(火)	H	12%	企業説明会 (株)Nishiki Foods
	平成 30 年 4 月 10 日(火)	N	90%	集団面接対策
	平成 30 年 4 月 11 日(水)	H	16%	企業説明会 (株)魚国総本社
	平成 30 年 4 月 11 日(水)	N	88%	履歴書の書き方 (自己 P R)
	平成 30 年 4 月 16 日(月)	全体	77%	キャリアタス U C 説明会
	平成 30 年 4 月 18 日(水)	H	11%	企業説明会 (株)日清医療食品
	平成 30 年 4 月 20 日(金)	全体	6%	キャリアタス U C 説明会
	平成 30 年 4 月 23 日(月)	H	10%	企業説明会 シノブフーズ(株)
	平成 30 年 4 月 24 日(火)	H	4%	企業説明会 (株)ロックフィールド
	平成 30 年 4 月 25 日(水)	H	10%	企業説明会 ウエルシア薬局(株)
	平成 30 年 5 月 9 日(水)	H	18%	企業説明会 関西グリコ(株)
	平成 30 年 5 月 14 日(月)	H	8%	企業説明会 (株)ユキオー
	平成 30 年 5 月 16 日(水)	H	7%	企業説明会(株)ロングライフホールディングス
	平成 30 年 5 月 29 日(火)	H	11%	企業説明会 (医) 医誠会



後期	平成31年1月16日(水)	H P	27% 65%	労働法制セミナー 大阪労働局
----	---------------	--------	------------	----------------

《短期大学部》 (CA：調理コース、CD：製菓コース)

1 年 次 後 期	日時	対象	出席率	対象	出席率	内容
		平成31年1月12日(土)	CA	4%	CD	0%
2 年 次 前 期	日時	対象	出席率	対象	出席率	内容
	平成30年4月16日(月)	CA	24%	CD	9%	キャリアタスUC説明会
	平成30年4月16日(月)	CA	85%	CD	/	学内企業説明会*
	平成30年4月17日(火)	CA	94%	CD	/	履歴書の書き方(自己PR)
	平成30年4月18日(水)	CA	/	CD	93%	履歴書の書き方(自己PR)
	平成30年4月19日(木)	CA	/	CD	79%	学内企業説明会*
	平成30年4月20日(金)	CA	52%	CD	63%	キャリアタスUC説明会
	平成30年4月23日(月)	CA	94%	CD	/	学内企業説明会*
	平成30年4月26日(木)	CA	/	CD	79%	学内企業説明会*
	平成30年5月8日(火)	CA	82%	CD	/	集団面接対策
	平成30年5月9日(水)	CA	/	CD	83%	集団面接対策
	平成30年5月14日(月)		79%		/	学内企業説明会*
	平成30年5月28日(月)	CA	58%	CD	/	学内企業説明会*
	平成30年5月31日(木)	CA	/	CD	40%	学内企業説明会*

\* [学内企業説明会 参加企業、施設]

(平成30年4月16日)

- ・株式会社京都ホテル
- ・株式会社エームサービス
- ・株式会社ダイナック

(平成30年4月19日)

- ・株式会社ニュー・オータニ ホテルニューオータニ大阪
- ・株式会社シャノワール
- ・株式会社阪急ベーカリー

(平成30年4月23日)

- ・株式会社帝国ホテル 帝国ホテル大阪
- ・株式会社WD I JAPAN

- ・株式会社ニュー・オータニ ホテルニューオータニ大阪
- ・リゾートトラスト株式会社  
(平成 30 年 4 月 26 日)
- ・株式会社シュゼット・ホールディングス ・株式会社ドロキアオラシイタ
- ・株式会社WD I J A P A N ・株式会社ユキオー

(平成 30 年 5 月 14 日)

- ・株式会社阪急阪神ホテルズ ・株式会社オペレーションファクトリー
- ・ウェスティンホテル大阪 ・株式会社P l a n ・ D o ・ S e e

(平成 30 年 5 月 28 日)

- ・株式会社なだ万 ・株式会社ポトマック ・シダックス株式会社

(平成 30 年 5 月 31 日)

- ・株式会社なかむら ・洋菓子のサフラン

2 年 次 後 期	日時	対 象	出 席 率	対 象	出 席 率	内容
	平成 31 年 2 月 6 日(水)	CA	85%	CD	77%	労働条件について 大阪労働局

#### ウ インターンシップ

- 健康栄養学科 3 年次生対象に企業インターンシップ (1DAY、2DAY の短期) について情報提供、及び参加を推奨した。
- 健康栄養学科、子ども教育学科 (企業希望者)、調理製菓学科との連携、情報共有した。

#### エ 既卒者支援

大学ホームページに案内を掲載、各学科と連携し、就職を希望する既卒者に対して求人案内等の支援を行った。

#### ③学内連携

##### ア 学科との就職連絡会議 (定期開催)

- ・毎月 1 回、各学科就職学年担任と学生の進路について情報交換を行った。

##### イ 部長会議 (定期開催)

- ・毎月 1 回、各部署部長、センター長との情報交換を行った。

##### ウ 事務連絡会議 (定期開催)

- ・毎月 1 回、各部署事務担当者と情報交換を行った。

### (3)自己点検・評価報告

#### ①キャリア支援整備

##### ア 学生対応

有資格のキャリアコンサルタントによる個別面談、及び就職支援を行った。

##### イ 学内就職セミナー

- a 各学科に応じた学内業界研究会を実施した。
- b 各学科に応じた学内企業説明会を実施した。
- c 各学科卒業生による OBOG との懇談会を実施した。
- d 外部講師セミナーを各学科の要望に沿って実施した。

#### ②アンケート（対象学科：健康栄養学科、子ども教育学科、調理製菓学科）

##### ア 就職先企業・事業所アンケート

- a 卒業生採用実績企業 226 社を対象とし業務評価等内容のアンケートを送付した。
- b アンケート 108 社の回答を抽出した。（回答率：47.8%）
- c 各事業所での本学卒業生の勤務状況についての質問項目に回答頂いた。

##### イ 卒業生アンケート

- a 今年度は実施せず。
- b 平成 28 年度、平成 29 年度、平成 30 年度卒業生アンケートは平成 31 年に実施予定。

## 6 入試部

### (1)平成 31 年度入試結果（総括）

平成 31 年度入試の結果について、大学の学部全体及び学科別入学定員に対する入学定員充足率は、学部全体では 0.97 倍であった。各学科の入学定員充足率は健康栄養学科の 0.99 倍、子ども教育学科は 0.93 倍、看護学科では 1.00 倍である。

短期大学の調理製菓学科の充足率は 0.63 倍であった。

大学の学部全体の入学定員に対する実質志願倍率は 2.0 倍と前年度より 0.3 ポイント下降し、総志願者数は 488 名（チャレンジ志願者除く）であった。

次に入試区分別・学部全体志願者の動向では、AO・推薦入試（指定校、スポーツ含む）を合わせて 56.6%、一般入試（センター利用入試含む）からの志願者の割合は 43.4%となり、昨年度と比べると比率が逆転しており、看護学科の一般入試での志願者減少が影響している。ちなみに前年度の一般入試（センター利用入試含む）志願者の割合は 54.7%であり、11.3 ポイント減少した。

また地域別志願者の動向では、近畿 2 府 4 県からの志願者は 425 名となり、前年の 510 名より 85 名減少した。ちなみに大阪府・兵庫県からの志願者は 381 名と前年の

464名から83名の減少で、近隣の高等学校対策が急務と考えられる。

一方近畿以外からの志願者は63名と、前年の53名を上回る結果となった。

## (2)平成31年度入試の学生募集活動報告

本年度の入試方針は質的・倍率の向上を目指すことを第一に学生募集活動を行ってきた。

学科により差はあるが、平均競争倍率は1.57倍と、前年の1.68倍を0.11ポイント下回る結果となった。

ここで本年度の入学試験に関わる方策や広報活動結果を明記することとする。

### ① 入試制度改革の概要と成果

#### ア 特別推薦入試

九州地区担当者とも協議し、指定校を14校追加した。

#### イ AO入試

欠席日数30日以内の出願資格を撤廃し門戸を広げると同時に、健康栄養学科において「化学基礎」及び「生物基礎」を履修していることを追加した。

#### ウ 公募制推薦

出願資格の欠席日数30日以内を撤廃と、健康栄養学科に「化学基礎」及び「生物基礎」を履修していることを追加した。また、看護学科においては小論文を廃止し、3日程ともより学力を計りやすい学力試験に統一した。短期大学部においては、面接試験を廃止し、3日程とも学力試験に統一した。試験科目の変更を行った。

#### エ 一般入試

看護学科志願者に、健康栄養学科を第二志望とする制度を導入した。これにより健康栄養学科に4名の入学者を確保することができた。

#### オ センター試験利用入試

3月に日程を追加し2日程で実施した。また、短期大学部にも導入した。

#### カ 外国人留学生入試

出願資格のひとつである日本留学生試験「日本語」の成績を300点から200点に引き下げた。

### ②学生募集・広報活動の取り組みと成果

ア 各種の広告媒体は予算削減方針もあり広告の出稿は減らしたが、全体の資料請求者数は、ほぼ昨年並みであった。学科ごとには、健康栄養学科は前年度比6.2%減少、子ども教育学科は4.7%減少、看護学科は0.3%増加となった。健康栄養学科と子ども教育学科では志願者数と資料請求者数の増減率が逆転しており、次年度は、認知から出願までの行動の精度をさらに上げる広報活動にしたい。

イ オープンキャンパス動員数は、前年比17%増加となった。案内告知は早期より高校への案内送付と訪問時の案内、個人には本学のHPや各種Web広告、受験雑誌、ガイダンス時の対面広報と5回実施のダイレクトメールなど重層的なアプローチで効果をあげた。

ウ 高校訪問は、延べ492校、前年より31%減。会場・校内ガイダンスへの参画

状況は、ほぼ昨年並み（0.2%増）。本年度は人員の問題もあり、参画数を増やすことができず。高校訪問については、訪問先を精査し、効率化を図ったため、訪問校数が減少した

次年度も、高校生に直接働きかける機会である、進学ガイダンスを重視し、高校訪問も情報収集・提供の手段として積極的に取り組みたいが、人員の問題もあり、単純な参画数、訪問校数ではなく、中身に拘ったものにしたい。

エ 高校へはファクシミリを使って、入試案内・各種イベントの告知をリアルタイムに情報発信を行った。本年度は2回通信した。高校により周知方法は様々なようであるが次年度も継続し、活用していきたい。

### (3)次年度への主な学生募集・広報活動への取組み

#### ①入学試験に関わる取組み

ア 「完全ネット出願」3年目の次年度は事務作業効率化に向け、一層の部内の共有に取り組みたい。また入試制度の変更点を含めた内容変更について遺漏のないよう対応する。

イ 入学試験実施・運営に当たっては、遺漏のない入試体制の構築を図る。

#### ②広報活動に関する取組み

ア オープンキャンパスの動員は劇的な増加は困難であると考えられる。このことから次年度も引き続き来場者の出願率向上を目指すオープンキャンパスとする。

イ 公式 Web サイトを全面的にリニューアルし、認知度向上によって、資料請求者・オープンキャンパス参加者・志願者の増加を実現させたい。

## viii 青山幼稚園

### 1 平成30年度の園児数と学級編成（平成30年5月1日現在）

年長組	5クラス	162名	
年中組	5クラス	131名	
年少組	6クラス	143名	16クラス：436名

### 2 平成30年度に実施した行事

- 4月 第54回入園式・進級式
- 5月 保育参観・園外保育・内科検診・歯科検診・避難訓練・後援育友会総会
- 6月 歯磨き訓練・ふれあい動物村・水遊び・日曜参観・プラネタリウム
- 7月 七夕まつり・星まつり・個人懇談会・宿泊保育・29年度同園会・夏期保育
- 9月 入園説明会・園児募集・運動会
- 10月 31年度園児募集受付開始・入園検定・園外保育（栗拾い、芋掘り）
- 11月 観劇会・園外一斉保育・避難訓練・七五三
- 12月 生活発表会・おもちゃつき・クリスマス会・終業式
- 1月 避難訓練・保育参観
- 2月 豆まき・絵画制作展・個人懇談会・観劇

- 3月 ひな祭り・全園児お別れ会・お別れ会・謝恩会・第54回卒園式・修了式  
※学期ごとに終業式、始業式実施  
※月ごとに「お誕生会」実施

### 3 旧館（南館）の建て替え工事と園庭の整備等

- (1) 構造耐震指標が低い園舎（南館）の解体を実施した。
- (2) 運動場側通用門（園バス・人）工事と駐車場の整備工事を実施した。
- (3) 南館解体に伴い英語の授業用教室及びフリールーム2室、後援育友会等使用の会議室、職員の更衣室、バス運転手控え室を含む新園舎として改築を実施した。

### 4 環境整備

- (1) 園内の樹木の剪定、整備、花壇の整備と季節を彩る花を栽培し、季節感に溢れた園内に努め、園児が豊かな自然に触れあえる環境作りを進めた。
- (2) 既存施設設備等の安全・点検をした。
- (3) 施設設備の修理等  
新しい物置の改築・園庭階段一部修理、大すべり台部分修理をした。

### 5 教員組織の資質向上と充実

- (1) 年間研修計画に基づき、各種団体主催の研修会に参加すると共に、園内における研修実施、引き続き外部講師による音楽の教員実技研修会を実施した。
- (2) 新卒教員の採用はできず、今後も確保（特に大阪青山大学）を大学と連携し、積極的に推進することを継続したい。
- (3) 青山大学教員の協力を得て、第9回全国幼児教育実践学会において園での取り組み（アクティブラーニング）をポスター発表した。（東京家政大学にて）
- (4) 大阪青山大学の連携を進め、保育・教育の充実、教員の指導力の向上に努め、子ども教育学科の教育実習と看護学科の実習に協力した。

### 6 園児サービスの向上、保護者との連携の推進

- (1) ホームページや園だより、クラス便り等を活用し、日々の保育・教育、行事等の様子等を積極的に発信し、保育、教育への理解を図り、保護者、後援育友会と連携、協力し、充実した活動を進めた。
- (2) 園行事の評価・改善、充実に努め、後援育友会との連携を積極的に進めた。
- (3) 通園バスのコース、便数、時間などを踏まえより安全で便利な送迎に努めた。
- (4) 火災、地震、バス事故などを想定した避難訓練を実施し、安全管理に努めた。避難訓練および送迎バス避難訓練を年間6回実施した。
- (5) 開園時や長期休業中の預かり保育を実施し充実に努めた。
- (6) 未就園児教室「青葉の会」の園児が年少組へスムーズに入園出来るよう保育の一層の充実と本園への入園のための情報提供や説明に努めた。

## 7 地域との交流推進

- (1) 近隣地区、近隣小中学校との連携を図った。
- (2) 中学校職業体験学習に協力した。(青山台中・箕面四中・箕面六中)
- (3) 地域運動会等の地域行事に協力した。

## 8 平成 31 年度の園児募集

入園説明会、体験入園や入園案内パンフレット等で、本園の保育理念、特色ある活動等を丁寧に紹介、PRするとともにホームページのブログで日々の保育行事における園児の様子や活動内容を積極的に紹介し、園児募集に努めた。

## 9 その他

全日本私立幼稚園連盟・大阪府私立幼稚園連盟・三島地区私立幼稚園連盟・吹田市私立幼稚園園長会などの構成員として参加、協力した。